

国定廃止までの教科書に載ったイソップ寓話

吉見 孝夫

一 イソップ普及のルートとしての教科書

筆者は、日本において一九世紀後半に急速にイソップ寓話が国民的常識にまでなったのには次の四つのルートがあったと考える。

A 刊行されたイソップ寓話集

B イソップ寓話を掲載する寓話集等一般図書

C イソップ寓話を掲載する教科書

D イソップ寓話を掲載する新聞・雑誌

A・B・Dについては既にいくつかの調査結果を本誌『イソップ資料』に公表してきた。

A に関する調査

・ 大久保夢遊、竹村友治郎編『伊曾保物語』の出版（第七号、二〇一六年三月一五日）

・ 明治期のイソップ寓話集類―概要―、タイトル・原拠・同一―、―対照表―（第一三号、二〇二一年一〇月三〇日）

B に関する調査

・ 『経済説略』『生産道案内』『経済要旨』のイソップ寓話（第一一〇号、二〇一八年一〇月三一日）

・ 明治期の寓話集等に載ったイソップ寓話（第二二〇号、二〇一九年一二月一六日）

D に関する調査

・ 『ROMAJI ZASSHI』に掲載されたイソップ寓話（第二二〇号、二〇一二年三月一五日）

・ 幕末、明治初期の新聞に掲載されたイソップ寓話―『万国新聞（紙）』『中外新聞』『遠近新聞』―（第三号、二〇一三年三月一五日）

・ 『絵入朝野新聞』に掲載された『伊曾保物語』―解説編―、―複写編―、―翻字編―（『イソップ資料』第四号、二〇一四年三月一五日）

・ 『遠近新聞』に掲載されたイソップ寓話―花間隆氏の指摘による補訂―（第九号、二〇一七年四月三〇日）

・ 明治期の雑誌に載ったイソップ寓話（第一一〇号、二〇一八年一〇月三一日）

・ 明治期の雑誌に載ったイソップ寓話 補遺（第二二〇号、二〇一九年一二月一六日）

この小論は、日本におけるイソップの受容過程を考究

するための基礎資料となることを目論んで、Cに関し、どの教科書がどの寓話を掲載したかを調査した結果を示すものである。なお戦後の小中学校教科書については今村浩子による本誌掲載の以下の調査報告があるので、調査対象から除外する。

- ・戦後の中学校国語教科書におけるイソップ教材（第六号、二〇一五年四月三〇日）
- ・戦後の小学校国語教科書におけるイソップ教材（第一四号、二〇二二年一〇月二〇日）

二 調査に当たっての二、三の留意点

調査に当たっては解決しなければならぬいくつかの問題がある。一つは調査対象とする教科書の範囲をどう限るか。ここでは教室で授業に使われることを目的として刊行された図書に限った。教科書制度の整わない明治初期には種々の図書が教科書となった。例えば渡部温『通俗伊蘇普物語』は修身の教科書として使用されている。しかしこれは授業のために出版されたものではない。この種の図書は除外した。教師が修身の授業を進めるうえで役立てるための、いわばタネ本として教訓話を載せた本がある。こういった教師用参考書も対象外とした。教科書の中には児童用書とは別に、その指導書として教師用書が発行された場合がある。これの教材は児童用書と同じなので、除外する。ただし児童用書の所在が不明の場合は、その代用として教師用書を調査対象とする。また明治初期にあった「修身口授」という教科は文字通り

口授で授業は進められ、教科書は教師用書だけである。これは調査対象とする。

やっかいなのは、イソップ寓話の範囲の問題である。これはこの小論だけでなく、先のAとDいずれにも関わる問題であるが、これまでに公にした拙稿では十分に論じなかったので、ここで取り上げたい。結論を述べるならば、対象とするイソップ寓話とは次の条件を満たす事例とする。

学術的に認定されたイソップ寓話、あるいは日本においてイソップ由来と意識される寓話、そしてそれらの改変と見なし得る話。

学術的な認定としては、Ben Edwin Perryの*Aesopica* (University of Illinois Press, 1952) に登録された七二五話とする。日本においてイソップ由来と意識される寓話は、明治期までに日本に伝えられた以下のイソップ寓話集に採録された話とする。

『エソポのハブラス』(ESOPO NO FABVLAS)

仮名草子『伊曾保物語』

Robert Thom『意拾喻言』

Thomas James: *Aesop's Fables*

George Fyler Townsend: *Three Hundred Aesop's Fables*

Charles Stickney: *Aesop's Fables*

少し注釈が必要であろう。この条件からすると、イソップ寓話集を経由しないで伝わった話もイソップ寓話となり得る。羊飼いがライオンと対決させられるが、そのライオンを昔助けたことがあったために命拾いをする話

がある。*Aesopica* の五六三番である。その羊飼いの名をアンドロクルスとする話もあり、これは *Aesopica* では五六三番^aとする。その両方が日本に伝わっているが、名前ありは欧米の教科書の翻訳などから伝わったと思われる、日本に伝えられたイソップ寓話集にあるのは専ら名前なしの方である。名前ありはイソップとは意識されていないことになるが、両者とも *Aesopica* にあるので、この小論ではイソップ寓話とする。

犬からの逃げ方を百も知っているキツネが、一つしか知らないネコをバカにする。しかし実際に犬に襲われると、ネコは助かるが、キツネは捕まってしまう。これは日本ではグリム童話として伝えられ、イソップ寓話とは意識されていない。しかし *Aesopica* では六〇五番で登録されているので、イソップ寓話に含める。

改変が加わると更にややこしい。『戦国策』にある「虎の威を借る狐」と同様に、強者の権威を利用する弱者の話はイソップにもいくつかある。これらの改変で、登場する動物が変わり、結末も適宜変わると何に由来するのか判断しにくいケースがある。イソップか否かの認定においては恣意的にならざるを得ない場合もあることを予め白状しておく。

「寓話」という語についても付け加えておかなければならない。蛙に石を投げる少年に蛙が抗議する話がある。これの改変で、蛙に石を投げる少年を見て、大人がそれをたしなめる話が教科書には載っている。これでは寓話ではなく、ただの教訓話になってしまう。これをもイソ

ップ寓話と呼ぶのは乱暴ではあるが、寓話性を除く形で受け入れたという事実は受容史を考えるうえで示唆するところは大きい。それ故このような非寓話化の例もここでは対象とする。この小論では厳密性を欠くことになるのを承知のうえで、便宜上「寓話」という語を用いる。

当初は『日本教科書大系』所載の全教科書を対象とする悉皆調査を目論んだ。しかしそれは不可能ではないが、膨大な時間を必要とする。一方、現在は国立教育政策研究所教育図書館、国立国会図書館、各地の大学図書館の所蔵教科書のうち、かなりの数がインターネット上に公開されている。本論は、一部を除いてこの公開されている教科書及び実見し得た教科書を対象とした。取り上げた教科書は二〇〇種近くになる。同学年のほとんどが学んだ国定教科書がある一方、学習院という特殊な一校だけで使用された教科書もある。たまたま調べ得た教科書を選んだだけで、その点では不完全な調査とのそりを免れない。しかし数倍の時間と労力を費やして悉皆調査を試みたとしても、データ量は今回の調査に数割加わる程度と推測される。明治以降イソップ寓話がどのように受容されたかを見る基礎資料としては十分であると考え

る。教科書の概要を記述するに当たっては、次の文献に拠るところが大きい。

・古田東朔編『小学読本便覧』第一〜八巻（武蔵野書院、一九八一年七月〜二〇〇七年八月）

・府川源一郎（二〇一四）『明治初等国語教科書と子

ども読み物に関する研究 リテラシー形成メディア
の教育文化史』(ひつじ書房、二〇一四年二月一日)

三 イソップ寓話を掲載する明治期の教科書

以下に筆者が調べた範囲で判明した、イソップ寓話を掲載する教科書を時系列で示す。太陽暦が採用されたのは明治六年一月からなので、明治五年までは旧暦の月である。各教科書には略記を各項の頭に付す。

明治

六年(一八七三)

国田1…田中義廉編輯『小学読本』(初版本)(三月)

国福…福沢英之助訳『初学読本』(五月)

七年(一八七四)

国田1…田中義廉編『小学読本』(大改正本)(八月)

八年(一八七五)

修漢…漢加斯底爾訳『小学修身口授』(七月)

国市…市岡正一著『女学読本』(十一月)

九年(一八七六)

修青木…青木輔清編輯『小学民家童蒙解』(一二月)

一〇年(一八七七)

国田2…田中義廉編『小学読本』(私版本)(三月)

修天…天野皎編『小学修身談』(八月)

国鳥…鳥山啓編『初学入門』(九月)

一一年(一八七八)

修福…福井孝治著『小学修身談』(二月)

修木1…木戸麟編纂『修身説約』(九月)

一三年(一八八〇)

国久…久松義典『新撰小学読本』(二月)

一四年(一八八一)

国辻…辻敬之・小池民次著『初学読本』(四月)

修木2…木戸麟編『小学修身書』(六月)

修宮…宮本茂任・福井掬合著『小学修身読本』(六月)

修吉見…吉見経綸編『初等修身訓』(六月)

国中島…中島操・伊藤有隣編輯『小学読本』(一二月)

一五年(一八八二)

国内1…内田嘉一纂述『小学中等科読本』(五月)

国宇…宇田川準一訳『小学読本』(九月)

修日1…日柳政惣編述『修身画解』(一〇月)

一六年(一八八三)

国池…池田観編輯『新撰小学読本 中等科』(七月)

国原…原亮策纂述『小学読本 初等科』(九月)

修日2…日柳政惣編述『修身訓画読本』(十一月)

一七年(一八八四)

修青山…青山正義編『小学食経俱瑤口授編』(二月)

国若…若林虎三郎編『小学読本』(六月)

修青山…青山正義編『修身口授編』(八月)

国阿…阿部弘蔵纂述『小学読本』(十一月)

一八年(一八八五)

国塚靖1…塚原靖編輯『小学中等課児読本』(二月)

国吉静…吉田静撰『女兒読本 下等科』(二月)

国普1…普及舍著『読本』(五月)

国鈴…鈴木幹興・三田利徳編輯『啓蒙小学読本』(六月)

国普1…普及舍著『校訂読本』(六月)

国塚靖2…塚原靖撰『女子読本』(九月)

国井上1…井上蘇吉編『小学読本』(六卷本)(九月)

一九年(一八八六)

国新1…新保磐次著『日本読本』(二月)

国三尾…三尾重定編『新編小学読本』(三月)

修佐…佐沢太郎編輯『普通修身口授書』(四月)

国井田…井田秀生著『国民読本』(四月)

国竹…竹下権次郎編纂『小学読本』(四月)

国塚苔…塚原苔園撰『新体読方書』(六月)

修丹…丹所啓行・前川一郎同輯『普通小学修身談』(七月)

国工…工藤精一編『新読本』(九月)

国吉賢…吉田賢輔編述『初学読本』(一〇月)

国佐1…佐沢太郎編纂『尋常小学第一、四読本』(一月)

国内2…内田嘉一纂述『増訂小学読本』(十一月)

国高橋1…高橋熊太郎『普通読本』(十一月)

二〇年(一八八七)

国内3…内田嘉一編輯『実用読本 尋常科』(三月)

国文部1…文部省編集局編纂『尋常小学読本』(四月)

国佐2…佐沢太郎編纂『高等小学第一、四読本』(五月)

国高橋2…高橋熊太郎編『高等科用普通読本』(五月)

国西邨…西邨貞著『幼学読本』(五月)

国中原1…中原貞七編纂『新定読本』(六月)

国中原2…中原貞七編纂『高等読本』(六月)

修吉田…吉田利行編輯『小学修身鑑補』(六月)

国中川…中川重麗編纂『尋常小学明治読本』(七月)

国下…下田歌子著『国文小学読本』(八月)

国中根1…中根淑・内田嘉一同著『簡易小学読本』(九月)

修岸…岸弘毅編輯『小学修身用書』(一〇月)

国岡…岡村増太郎編述『小学高等読本』(一〇月)

国植…植村善作著『尋常小学温習読本』(十一月)

国中根2…中根淑・内田嘉一合著『小学簡易科読本』(二月)

国小松…小松忠之輔『尋常読本』(一二月)

二一年(一八八八)

国島…島崎友輔編輯『初学第一、八読本』(一月)

国木…木沢成肅・丹所啓行編輯『簡易小学読本』(二月)

国東…東京府庁編『小学読本』(四月)

国三宅…三宅米吉・新保磐次同著『高等日本読本』(五月)

国井上2…井上蘇吉編纂『小学読本』（八卷本）（六月）

国新2…新保磐次・林吾一同著『温習日本読本』（八月）

二年（一八九九）

修沢…沢辺慶作編輯『学校用修身書』（五月）

国金1…金港堂編輯所編輯『簡易補修日本読本』（二月）

四年（一九〇一）

国金1…金港堂編輯所編輯『新撰補修日本読本』（二月）

国金2…金港堂編輯所編輯『新撰高等日本読本』（九月）

五年（一九〇二）

修能1…能勢栄撰『尋常小学修身書 生徒用』（二月）

修萩…萩原朝之介著『帝国修身軌範 教師用』（三月）

修能2…能勢栄著『尋常小学修身書初歩 生徒用』（三月）

月）

国育1…育英舎編述『新撰小学読本』（三月）

修育1…育英舎編述『小学修身亀鑑 生徒用』（三月）

修岡…岡村増太郎著『尋常小学修身教科書』（三月）

修森…森慎一郎編輯『尋常小学修身書』（三月）

国金3…金港堂書籍編輯所編輯『新撰尋常日本読本』（四月）

月）

修末…末松謙澄著『小学修身訓 生徒用』（四月）

国山1…山県悌三郎著『小学国文読本 尋常小学校用』（六月）

（六月）

修重…重野安繹編輯『尋常小学修身』（七月）

国山2…山県悌三郎著『小学国文読本 尋常小学校用』（七月）

片仮名交』（九月）

修京…京都府教育会編纂『尋常小学修身書』（九月）

国学海1…学海指針社編輯『帝国読本』（九月）

修大…大和田建樹著『尋常小学修身訓 生徒用』（九月）

国渡…渡辺政吉著『單級小学尋常日本読本』（二月）

六年（一九〇三）

修小…小池民次著『尋常科生徒用初学修身書』（八月）

修教1…教育学館編輯『聖旨道德尋常小学修身書 児童用』（九月）

（九月）

修梶…梶山弛一編『尋常小学修身要訓 生徒用』（一〇月）

国日…日下部三之介編『新撰小学読本』（二月）

修教2…教育学館『聖旨道德尋常小学修身用画集』（二月）

七年（一九〇四）

国学習…学習院編纂『学習院初学教本』（三月）

修末…末松謙澄著『新定小学修身訓 生徒用』（六月）

国興…興風学館編『尋常小学教科用皇民読本』（七月）

国金4…金港堂書籍編輯所編輯『尋常小学新体読本』（八月）

国金4…金港堂書籍編輯所編輯『訂正新体読本 尋常小学校用』（八月）

（八月）

国金5…金港堂書籍編輯所編輯『高等小学新体読本』（九月）

国金6…金港堂書籍編輯所編輯『訂正新体読本 高等小学用』（二月）

（二月）

国浅…浅尾重敏編『小学尋常読本』（二月）

八年（一九〇五）

国西沢1…西沢之助編『尋常小学読本』(二月)

修教3…教育学館^{聖旨}『尋常小学修身書^{長野県}』(三月)

国育2…育英舎編纂^{尋常}『小学明治読本』(九月)

二九年(一九九六)

国金7…金港堂書籍編輯所編輯『小学読本 高等科用』

(二月)

国大矢…大矢透『大日本読本 尋常小学科』(二月)

三〇年(一九九七)

国文部2…文部省^{北海}『尋常小学読本』(三月)

国学海2…学海指針社編『新編帝国読本(尋常科用)』

(一〇月)

国文学1…文学社編輯所編纂『国民新読本 尋常小学

校用』(二月)

国神…神戸直吉著^{尋常}『小学新撰読本』(二月)

国学海3…学海指針社『新編帝国読本 高等科』(一

二月)

三一年(一九九八)

国文部3…文部省^{沖縄}『尋常小学読本』(三月)

修普1…普及舎編輯所訂正^{尋常}『訂正小学修身教典 生徒

用』(二月)

三二年(一九九九)

中大…大町芳衛・上田敏合編『新体中学国文教程』(四

月)

修学1…学海指針社編『帝国修身訓』(一〇月)

国西沢2…西沢之助編^{尋常}『小学国語読本』(一〇月)

国育3…育英舎編纂^新『尋常小学読本』(一〇月)

国坪1…坪内雄蔵著^撰『読本^{尋常小学}』(二月)

三三年(一九〇〇)

国普2…普及舎編『国語読本^{尋常小}』(九月)

国坪2…坪内雄蔵著『国語読本^{尋常小}』訂正再版(九月)

修普2…普及舎編輯所編^新『修身教典^{尋常小}』(九月)

国学海4…学海指針社編『小学国語読本』(九月)

修学2…学海指針社編『小学修身訓』(九月)

国金8…金港堂書籍^{尋常}『国語読本』(九月)

国学海5…学海指針社編『小学国語読本 高等科』(一

〇月)

国坪3…坪内雄蔵著『国語読本^{高等小}』(一〇月)

国文学1…文学社編輯所編纂『小学国語新読本 尋常

科用』(一〇月)

国学海6…学海指針社編^小『女子国語読本 高等科』

(一〇月)

国右…右文館編輯所編^{尋常}『小学国語読本』(一〇月)

修金…金港堂書籍編輯^{尋常}『小学単級修身訓』(一〇月)

国金9…金港堂書籍編輯^{訂修}『小学読本 高等科』(一

一月)

修右…右文館編輯所^{尋常}『小学実践修身訓 児童用』(一二

月)

国育4…育英舎^{尋常}『小学国語教本』(二月)

三四年(一九〇一)

修文1…文学社編輯所編纂『小学新修身尋常科教師用』(一月)
 国学海3…学海指針社編『修正新編帝国読本 高等科』
 (三月)
 修樋…樋口勘次郎・野田淹三郎合著『尋常修身教科書入門』(五月)
 国学海2…学海指針社『修正新編帝国読本(尋常科用)』
 (五月)
 国育5…育英舎編輯所編纂『(訂正)尋常小学国語教本』(六月)
 国樋1…樋口勘次郎・野田淹三郎合著『尋常国語教科書』(六月)
 国樋2…樋口勘次郎・野田淹三郎著『高等国語教科書』
 (六月)
 修育2…育英舎編輯所編纂『尋常修身教本』(六月)
 国育6…育英舎編輯所編纂『高等小学国語教本 女子用』(七月)
 国小山1…小山左文二・武島又次郎合著『新編国語読本
尋常小学校児童用』(六月)
 国文学2…文学社編輯所編纂『高等日本国語読本』(七月)
 修文2…文学社編輯所編纂『尋常日本修身書』(七月)
 国文学3…文学社編輯所編纂『尋常日本国語読本』(七月)
 国坪4…坪内雄蔵著『国語読本尋常小学校学校用』訂正三版(七月)

国坪5…坪内雄蔵著『国語読本高等科女子用』(七月)
 国右…右文館編輯所編『実驗国語読本 尋常小学校用』
 (八月)
 国西沢3…西沢之助編『尋常小学国語読本』(八月)
 国小山2…小山左文二・加納友市合著『高等單級国語読本
 児童用』(九月)
 国大日…大日本図書編輯『日本国語読本 尋常科』(九月)
 国小山3…小山左文二・加納友市合著『尋常單級国語読本
 児童用』(九月)
 国高知…高知県教育会編纂『国語読本尋常小学校用』(十一月)
 国渡…渡辺政吉『單級小学修正尋常日本読本』(十一月)
 三五年(一九〇二)
 国小山4…小山左文二・武島又次郎合著『新編国語読本
高等小学本 女子用』(二月)
 修普3…普及舎編輯所編『新編修身教典尋常小学校児童用』(八月)
 修光…国光社編輯所著『国民修身書尋常小学校用』(八月)
 国光…国光社編輯所編纂『国民読本尋常小学校用』(八月)
 国光…国光社編輯所編纂『小学読本尋常小学校用』(八月)
 国文学4…文学社編輯所編纂『單級国語教科書』(九月)
 国文学5…文学社編輯所編纂『尋常国語教科書』(十一月)
 中武…武島又次郎編『中学帝国読本』(十二月)

三六年（一九〇三）

国国一1…文部省著作『尋常小学読本』（第一期国定）
（十一月）

国国一2…文部省著作『高等小学読本』（第一期国定）
（十一月）

四一年（一九〇八）

外台1…台湾総督府著作『台湾教
科用書国民読本』（二月）

四二年（一九〇九）

国国二1…文部省著作『尋常小学読本』（第二期国定）
（九月）

国国二2…文部省著作『秋季
始業尋常小学読本』（第二期国定）
（九月）

四三年（一九一〇）

修国二…文部省著作『尋常小学修身書』（第二期国定）
（三月）

大正

元年（一九一二）

中上…上田万年編『大正改元中学読本』（二月）

二年（一九一三）

外台2…台湾総督府著作『公学
校用国民読本』（二月）

国国二3…文部省著作『第二種尋常小学読本』（第二期国定）
（二月）

四年（一九一五）

中金…金沢庄三郎著『高等女学校用国語教科書』（二月）
（〇月）

五年（一九一六）

外台3…台湾総督府著作『蕃人読本』（二月）
六年（一九一七）

外南1…臨時南洋群島防備隊司令部著作『南洋群島国語読本』（第一次）
（三月）

国国三1…文部省著作『尋常小学国語読本』（第三期国定）
（六月）

国国三2…文部省著作『尋常小学読本』（第三期国定）
（十一月）

七年（一九一八）

修国三…文部省著作『尋常小学修身書』（第三期国定）
（二月）

一一年（一九二二）

外朝1…朝鮮総督府著作『普通学校修身書』（一〇月）
一三年（一九二四）

外朝2…朝鮮総督府著作『普通
学校国語読本』（一月）

一四年（一九二五）

外南2…南洋庁著作『南洋
群島国語読本 本科用』（第二次）
（二月）

昭和

二年（一九二七）

中明…明治書院編輯部編纂『女子国文選』（一〇月）
外南3…南洋庁著作『南洋
群島国語読本 補習科用』（第二

次）（二月）

六年（一九三一）

外満…南満洲教育会教科書編輯部著作『満洲補充読本』
(四月)

中藤…藤村作・島津久基共編『改訂中等新国文』(八月)

七年(一九三二)

外南4…南洋庁著作『南洋群島国語読本 本科用』(第三次)
(三月)

国国四…文部省著作『小学国語読本』(第四期国定)
(十二月)

八年(一九三三)

修国四…文部省著作『尋常小学修身書』(第四期国定)
(十二月)

一二年(一九三七)

外南5…南洋庁著作『公学校本科国語読本』(第四次)(三月)
外南6…南洋庁著作『公学校補習科国語読本』(第四次)(三月)

一六年(一九四一)

国国五1…文部省著作『ヨミカタ／よみかた』(第五期国定)(三月)

国国五2…文部省著作『コトバノオケイコ／ことばのおけいこ』(第五期国定)(三月)

二二年(一九四七)

国国六…文部省著作『い／＼／国語』(第六期国定)
(一〇月)

四 掲載教科書の概要と掲載話

前節に示したイソップ寓話掲載の教科書の概要と、掲載話のタイトル等を示す。寓話の中には、改作、翻案の程度が甚だしく、一読してはイソップと無縁に見えるものもあるが、イソップに基づく判断される例はここに採った。イソップ寓話の範囲は、二節に述べたとおりである。

なお、当該の教科書に、寓話番号等の検索の手がかりがない場合は、該当箇所の丁付、ページをタイトルの下に「16オ」「48ペ」のように記した。タイトルの下の括弧内に「(A112)」等としたのは *Aesopica* の寓話番号である。「アリとキリギリス」で知られる寓話に該当するのは *Aesopica* では二話あり、二つの番号(112・373)を併記した。挿絵のある場合は、括弧内に「(絵)」と記した。

Aesopica がない寓話は、仮に二桁の番号を付け、括弧内に「(08)」のように全角の算用数字で示した。仮の番号とそれに対応する寓話内容は五節の「対照表」に記した。

1 修身教科書

『通俗伊蘇普物語』が修身教科書としても使用された事実表れているように、イソップ寓話の教訓は徳目と結びつけて理解された。それ故修身教科書の教材にも取り上げられている。

なお明治初期の教科「修身口授」は文字どおり教師の口伝で授業は行われるので、教科書は教師用である。

生徒は持つ必要がない。

修漢・漢加斯底爾訳『小学修身口授』（明治八年七月）

外題は「修身口授」。那珂通高訂。府川（二〇一四）によると、外国のリーダーなどから話を選んだらしい。教訓的な話を一九収める。漢字平仮名交じり文語体の和装本。文部省刊だが、各地で翻刻版が刊行されている。府川（二〇一四）一四七ページ以下が詳しい。一話がイソップに由来する。

「漢加斯底爾」はオランダ人 Abraham Thierry van Casteel（一八四三〜一八七八）の漢字音訳名。日本語に通じていたらしく、御雇外国語教師としていくつかの翻訳書を残している

1 「欺言を好む牧夫」 6才（A 210）

修青木・青木輔清編輯『小学民家童蒙解』卷之三（明治九年一二月）

イソップ由来の話があるのは卷三。府川（二〇一四）は卷三はアメリカの Emma Willard の *Morals for the Young* の抄訳だという。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の和装本。全五卷五冊。甲府の内藤伝右衛門刊。卷一は東京の同盟社刊。府川（二〇一四）一四八ページ以下が詳しい。

青木輔清（東江）は多くの教育書、語学書、啓蒙書を著している。

1 卷之三「誠実正直のはなし」 10才（A 210）

修天・天野皎編『小学修身談』（明治一〇年八月九日版権免許）

生徒の記憶に残るように題材を選んだという修身教科書。松本英忠訂正。全二二章から成る。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。洋装本としては早い時期のものである。天野皎は大阪在住で、出版人も大阪の池上儀八。七者挙がっている「発兌書肆」も大阪の書店。

天野は数多くの教育書を著している。

1 「第十二章 詐偽虚言す可らず」（A 210）
「火事だ」と嘘を繰り返す形に改変。

修福・福井孝治著『小学修身談』（明治一一年二月二七日版権免許）

翻訳書では日本の実情に合わない点もあるので、大阪師範学校附属小学校で授業した説話を冊子にまとめたという。狭間重垂閲。和漢洋およそ三〇の逸話などを収録する。漢字平仮名交じり総ルビ文語体の和装本。大阪の浅井吉兵衛刊。

福井孝治は大阪師範学校に在籍していたようだが、出版当時は鳥取在住。いくつかの著書がある。

1 「第二回 人に対して行ふべき務」（甲）人たるもの尋常一般の務 第六章 顧恩及忘恩 1 鳩と蟻との話」（A 235）（絵）

修木1…木戸麟編集『修身説約』（明治一一年九月版權御届）

和漢洋の修身談を収録する。文語体の和装本。巻一の版下の書き手は書家の巻菱潭（一八四六～一八八六）。巻一は漢字平仮名交じりだが、巻二以降は漢字片仮名交じり。巻七、八は合冊となり、全一〇巻九冊。巻七の巻頭に「綴巻ノ便宜ニ從ヒ七八ノ巻ヲ合シテ一卷ト為セリ第十八章以下ハ即八ノ巻ナリ看官之ヲ諒セヨ」とあり、巻八の採録話番号は巻七からの通し番号である。群馬県が版權を所有するが、東京の金港堂刊。本書は群馬県令楫取素彦の指揮下に木戸麟が編纂したものだが、金港堂が全国的に販売したので、修身教科書として広く使用されたという。本書のための辞書や指導書も刊行されている。府川（二〇一四）四五三ページ以下、九四七ページ以下が詳しい。

木戸麟（一八四八～一九〇二）は土佐中村の商家に生まれる。因みに木戸家は幸徳秋水の生家とも交流があり、秋水は麟のいとこ木戸明の私塾で学んでいる。麟は大坂の華岡塾（当時は青洲の孫準平主宰）などで学び、維新後は陸軍医となる。本書出版当時は群馬県学務課委員。

1巻之一「第五」（A 210）（絵）

文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。

2巻之一「第六」（A 226）（絵）

3巻之一「第十一」（A 426）（絵）

文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。

4巻之二「第十三」（A 173）

文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。

5巻三「第十九」（A 566）

6巻五「第十」（A 46）

7巻六「第一」（A 156）（絵）

8巻八「第二十二」（A 176）

9巻八「第二十四」（A 563）（絵）

絵は河鍋曉斎。

10巻十「第三」（A 42）

11巻十「第五」（A 112・373）

参考

木戸麟編『修身説約説例』（明治一二年一月刊）

十巻九冊。『修身説約』に出現する語の説明書。

木戸麟編『修身説約問答方』（明治一三年二月刊）

上下二冊。『修身説約』の指導書。児童への設問と解答を示す。

修木2…木戸麟編『小学修身書』（明治一四年六月二二日版權免許）

〈修木1〉『修身説約』（明治一一年）同様に、和漢洋の修身談を収録する。木戸麟編、金港堂刊も同じ。巻四までは版下の書き手も同じく巻菱潭だが、巻五以降は松井甲太郎。絵は河鍋曉斎。巻六までは漢字平仮名交じり、巻七以降は漢字片仮名交じりの文語文。全一二巻一二冊の和装本。一年足らず後の明治一五年五月には第七版が出ており、これも全国的に使用されたい。

木戸麟については〈修木1〉の項に記したが、明治一二年に群馬県を離れ、この時点では福岡県の官吏であった。

1 一「孝弟 師友」16才（A 210）（絵）

文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。絵は『通俗伊蘇普物語』同様に河鍋曉斎の手になり、構図は類似するが、新たに描きおろしている。

2 二「衣服」17才（A 472）（絵）

文は『通俗伊蘇普物語』に概ね基づく。絵は『通俗伊蘇普物語』の桧皇邨のとは異なり、曉斎による新たなものである。

3 五「第二章 学問」16才（A 226）

文は『通俗伊蘇普物語』とは全く異なる。

修官・宮本茂任・福井掬合著『小学修身読本』（明治一四年六月）

各章まず徳目につき一般論を説き、その後に「古人の事実」を付けて説得力を持たせようという形式を採る。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全四巻四冊。福岡の三書房刊。出版人として福岡の三名の名があり、「三書房」という名から推測すると、三者が共同して創設したか。

宮本茂任、福井掬ともに福岡在住者で、いずれも修身書や漢文関係の著書がある。

1 巻四「鑑戒部 第四章虚誕 羊ヲ守ル子供ノ事」（A

210）（絵）

修吉見・吉見経綸編『初等小学修身訓』（明治一四年六月）

徳目を説き、その後に例話を挙げる。話材は和漢洋から採る。漢字平仮名交じり文語体の和装本。前後篇二冊。東京の石川書房刊。

吉見経綸は教育関係を中心に、多くの著書、訳書を持つ。

1 前篇「第六章 羊飼の子供の話」（A 210）

2 前篇「第八章 蟻と阜蝨の話」（A 112・373）

修日1・日柳政惣編述『修身画解』（明治一五年一〇月）

まず嘉言を載せ、その「解」として、例話と挿絵を掲出する。各話は半丁に収まるように配列されている。漢字平仮名交じり文語体の和装本。大阪の浪華文会刊。刊記に「著者兼出版人日柳政惣」とあるので、同会は日柳の創設なのであろう。

日柳には教育書、漢詩などの著書がいくつかある。

1 「第四課 ○虚言は。身を亡ぼすの基。小学読本」（A 210）（絵）

修日2・日柳政惣編述『修身訓画読本』（明治一六年一月七日版權免許）

（修日1）『修身画解』（明治一五年）の「解」（訓話の解説）を省いたもの。漢字平仮名交じり文語体の和装

本。大阪の浪華文会刊。

日柳政惣については〈修日1〉の項に記した。

- 1 「虚言は身を亡ぼすの基」小学読本 8才 (A 210) (絵)
絵は『修身画解』と同じ。「人を欺く牧童狼に噛る図」という説明がある。

修青山・青山正義編『小学修身食経俱磋口授編』(明治一七年二月一五出版権免許)・青山正義編『修身口授編』(明治一七年八月五出版権免許)

前者には「食経」に「ヲシヘ」とルビが付いているので、「食経俱磋」は「をしへぐさ」と読むのであろう。

「教ハ食経ノ意」だという語源説に従い、「師弟ノ俱ニ磋カン」を願って付けた書名。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全五巻五冊。京都の大黒屋書舗刊。イソツプ寓話の改変が見られる。後者は全六巻六冊だが、巻之五までは前者の同版の改題本。同じく大黒屋書舗刊。

青山正義には小学生向け教育書がいくつかある。

- 1 巻之一 善行事实之部「六 老人訓談」(05)
2 巻之五「十七 神助自助者」(A 291)
3 巻之五「十八 貪欲反損」(A 58・87)
A 58とA 87の混合か。

修佐・佐沢太郎編輯『普通小学修身口授書』(明治一九年四月)

修身の例話を集めた教科書。漢字片仮名交じり文語体の和装本。東京の集英堂刊。全四巻四冊。

佐沢太郎(一八三八〜一八九六)は開成所の教員を経て、維新後は文部省に出仕し、フランス語からの翻訳書を手がけている。明治一八年には文部省を退職。

- 1 巻之一「亀ト兎ト競争ス」2才 (A 226)
2 巻之三「蟻恩ヲ報ズ」4ウ (A 235)
3 巻之五「欲深ケレバ物ヲ失フ」14才 (A 133)

修丹・丹所啓行・前川一郎同輯『普通小学修身談』(明治一九年七月)

阿部弘蔵校閲。嘉言を見出しにし、続いてその例話を載せる。漢字平仮名交じり文語体の和装本。各巻内、上下に分かれている。全八巻八冊。東京の集英堂刊。

丹所啓行(一八三九?)は安中藩士の子。明治一〇年四〇歳近くで東京師範学校を卒業し、東京府学務課に入り、以後初等教育に従事する。教科書、教育書を編集している。前川一郎には地理関係を中心にいくつかの教育書がある。

- 1 巻之一上「羊の番する子供の事」7ウ (A 210)
2 巻之二下「狐児恩を知らず」27才 (A 176)
蝮を狐の仔に変える。

修吉田・吉田利行編輯『小学修身鑑補』(明治二〇年六月)

先に吉田利行が刊行した嘉言集『小学修身鑑』(明治一八年)に例話を加えて増補したもの。漢字片仮名交じ

り文語体の和装本。全一四卷一四冊。見返しには「魁玉堂藏版」、柱記には「星文館」とあり、出版人は福岡の右田喜久郎となっている。

吉田も福岡在住で、修身、漢文関係の本を多く出している。

1 卷二「第二 慎言 四 牧童詐ヲ吐キ放逐セラル話」
(A 210)

2 卷七「第三 勉強 八 農夫遺言シテ暗ニ財宝ヲ与ヘシ話」(A 42)

修岸・岸弘毅編輯『小学修身用書』(明治二〇年一〇月)

初めに例話を載せ、その後「格言」(例えば「兎と亀と競走せし話」であれば、「事はおこたるにやぶる」)を示す。第一冊・第二冊では更に例話を要約した「約話」を加える。教師用の教科書で、漢字平仮名交じり文語体の洋装本。全四冊。東京の成美堂刊。

岸弘毅には修身書、習字書などがある。

- 1 第一「〇農夫と鶴鳥の話」42 ぺ (A 194)
- 2 第一「〇兎と亀と競走せし話」53 ぺ (A 226)
- 3 第一「〇羊の番する牧童の話」88 ぺ (A 210)
- 4 第一「〇蟻蟲の話」95 ぺ (A 112・373)
- 5 第一「〇衆子葡萄園を耕せし話」98 ぺ (A 42)
- 6 第一「〇児童の栗を取る話」117 ぺ (03)
- 7 第二「〇渴鴉瓶水を飲み得し話」82 ぺ (A 390)

修沢・沢辺慶作編輯『学校用修身書』卷之一(明治二二年五月一日)・卷之二(明治二二年七月二六日)・卷之三(明治二四年三月三〇日)

副題に「一名修身掛図解説」とある。児童に掛図を見せながら授業を進めるための教師用教科書を意図しているのである。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全三卷三冊。成美堂刊。成美堂は岐阜に本店があるが、刊記には発売所として東京の支店のみが挙がっている、支店が実質的に出版に携わったのである。

沢辺慶作も東京在住。地理関係の書がいくつかある。

- 1 卷之一「(十) 鴉の智よく渴を防ぎし話」(A 390)(絵)
- 2 卷之二「(五) 羊飼の童子虚言をつきし話」(A 210)(絵)
- 3 卷之二「(十四) 老農の遺言の話」(A 42)(絵)
- 4 卷之三「(三) 蟻の鳩に恩を報ひし話」(A 235)(絵)
- 5・6 卷之三「(九) 鹿の水鏡の話 并欲深き犬の話」(A 74)(A 133)(絵)
- 7 卷之三「(十一) 乳汁売婦の話」(01)(絵)

修能1・能勢榮撰『尋常小学修身書 生徒用』卷一(明治二五年二月二五日)・卷六(明治二五年三月一日)

訓話集だが、末尾を大字の嘉言・格言で締めくくる工夫がある(例えば卷一第三課なら「その友をみて、その人をする。」。漢字平仮名交じり文語体の和装本だが、丁付けではなくページ付けになっている。全六卷六冊。東京の金港堂書籍刊。採用されたイソップ寓話の多くは

改変されている。

能勢栄（一八五二～一八九五）は長野・福島などの師範学校校長を歴任した教育学者。ヘルバルト学派の翻訳・紹介に努める。

- 1 卷一「第三課 馬のはなし」(A 237) (絵)
- 2 卷一「第五課 力を出せば車動く」(A 291) (絵)
- 3 卷一「第十二課 蟻恩にむくゆ」(A 235) (絵)
- 4 卷一「第二十課 小犬の心づけ」(A 330) (絵)
- 5 卷二「第四課 牙をとぐ猪」(A 224) (絵)
- 6 卷二「第九課 鳥さしと雀」(A 265) (絵)
- 7 卷二「第十課 猿利口」(A 73) (絵)
- 8 卷三「第五課 蚊と牛」(A 137) (絵)
- 9 卷三「第十六課 亀と兎」(A 226) (絵)
- 10 卷四「第十三課 犬の後悔」(A 133) (絵)
- 11 卷六「第十一課 蝙蝠の破廉恥」(A 566) (絵)

修萩…萩原朝之介著『帝国修身軌範 教師用』(明治二五年三月四日)

巻頭に教育勅語を載せる。各章「訓語」「例話」「応用設問」からなる。全四冊。文語体の洋装本。漢字平仮名交じりも片仮名交じりもある。東京の博文館刊。

萩原朝之介にはスマイルズの著書の翻訳などがある。また文部省『尋常小学読本』(明治二〇年)の補助を担当している。

- 1 第一冊「第十三章 言語上ノ作法／例話 羊番の児童」(A 210)

修能2…能勢栄著『尋常小学修身書初歩 生徒用』(明治二五年三月一六日)

タイトルと絵のみ。実際の授業では教師が絵を解説しながら教訓を説くのである。絵だけでははつきりしないが、教師用を参照すると次の三課がイソップ寓話(の改変)であることがわかる。全二巻二冊の和装本。東京の金港堂書籍刊。

能勢栄については〈修能1〉『尋常小学修身書 生徒用』(明治二五年)の項に記した。

- 1 卷一「第二十四課 蟻、蟋蟀と問答す。」(A 112・373) (絵)
 - 2 卷一「第二十五課 小鼠、奇策を献す。」(A 613) (絵)
 - 3 卷二「第十二課 樵夫、亀と問答す。」(A 173) (絵)
- 神が亀になっている。

修育1…育英舎編述『小学修身亀鑑 生徒用』(明治二五年三月一九日)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全四巻四冊。出版人として名の挙がる阪上半七は育英舎の代表者なので、育英舎刊としてよいだろう。

- 1 卷一「第三十八」(A 472) (絵)
- 2 卷二「第五」(A 384) (絵)

本文は蛙が鼠に不親切なことをして却って禍を受けたとあるだけだが、絵では猛禽が蛙と繋がった糸の切れた鼠を捕らえる。「教師用」に拠ると、鷹が鼠を捕ら

え、蛙は落下して死ぬ。

3 卷二「第十二」(A 376)

4 卷二「第十三」(A 194)(絵)

本文は良い友を選べという訓戒だけだが、絵は農民が鳥をつかむ図。「教師用」に拠ると、畑を荒らす鳩を捕まえると鳥が入っていた。命乞いをする鳥に農民は鳩と一緒にいるのは許せないと殺す。

5 卷二「第十五」(A 210)(絵)

6 卷二「第二十一」(A 65)(絵)

7 卷二「第二十七」(A 563)(絵)

8 卷二「第三十」(A 175)(絵)

9 卷二「第三十六」(A 226)(絵)

10 卷三「第三」(A 139)

11 卷三「第八」(A 67)(絵)

修岡・岡村増太郎著『尋常修身教科書』(明治二五年三月二四日)

岡松甕谷闊。全四卷四冊。巻一は絵のみ。和装本だが、ページ付け。東京の博文館刊。

岡村増太郎は東京で小学校長に就き、多くの小学生向け教育書を著している。

1 巻一「勤勉」8ペ(A 112・373)(絵)

2 巻一「節制」27ペ(A 133)(絵)

修森・森慎一郎編輯『尋常小学修身書』(明治二五年三

月二九日)

最初に格言・嘉言を掲出し、次にそれに相応しい「略話」と挿絵を載せる。各話は半丁に収まる。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全四卷四冊。発行者は東京の阪上半七。

森慎一郎は『教育論略』(明治二三年)という編述書があるのが知られるだけである。

1 巻一「勤勉」オコトラズ、ツトム、ベシ。」3ウ(A 226)(絵)

2 巻一「仁慈」ミダリニ、イキモノヲ、コロス、ベカラズ。」9オ(05)(絵)

3 巻一「節制」ヨク、フカキヲ、イマシムベシ。」11オ(A 133)(絵)

4 巻一「仁慈」メグミヲ、ホドコス、ベシ。」11ウ(A 235)(絵)

5 巻一「謙遜」ミツカラ、ホコル、ベカラズ。」16オ(A 151)(絵)

修末・末松謙澄著『小学修身訓生徒用』(明治二五年四月)・末松謙澄著『新定小学修身訓生徒用』(明治二七年六月二八日)

一般的に徳目を説き、必ずしも例話を付けていない。文語体和装本で、巻之上はほとんど平仮名表記である。上中下三巻三冊。東京の精華舎刊。後者は前者の改訂版。イソップに関しては一。

当時の末松謙澄（一八五五～一九二〇）は明治二三年第一回の衆議院選挙で当選し、二五年には法制局長官に就任している。修身教科書を権威付けるためには、この上ない人選であろう。

1 卷之上「第十二」（A 210）（絵）

本文は「うそごとを、いふべからず、うそごとを、いふものは、まことのことを、いふときも、人これを、まこととせず、身のわざはひを、まねくものなり、」（『新定』では「うそごと」を「そらごと」に変える）とあるだけだが、絵はA 210を踏まえている。

修重・重野安繹編輯『尋常小学修身』（明治二五年七月六日）

巻頭に教育勅語を載せる。文語体で、一部漢字平仮名交じりもあるが基本的には漢字片仮名交じりの和装本。ただし丁付けではなくページ付け。全四巻四冊。東京の八尾書店刊。この教科書は検定申請本と実際に供給された検定済みの本とでは内容が大きく異なる。イソップについても以下に挙げたのは供給本であり、申請本の巻一にはイソップ寓話はない。

重野安繹（一八二五～一九一〇）は当時帝国大学教授、貴族院議員。教科書を権威付けるには十分であろう。

1 卷一「蟻の報恩」（A 235）（絵）

絵には何も説明がないが、水の上を行く葉に乗った蟻を鳩が木の枝から見つめているものである。

修京・京都府教育会編纂『^{尋常}小学修身書』（明治二五年九月一日）

正確には京都府教育会中竹野熊野三郡部会編纂。中、竹野、熊野の三郡は京都府北部に位置し、現在は京丹後市。本書の使用地域もこの三郡の小学校に限られたと思われる。巻頭に教育勅語を載せる。イソップのある巻一は絵と平仮名による嘉言のみ、ただしタイトルは漢字片仮名交じり文語体。和装本だが、ページ付け。全四巻四冊。「発行兼印刷者」は京都の福井源治郎。

1 卷一「第八 蟻恩ヲ報ズ」（A 235）（絵）

修大・大和田建樹著『^{尋常}小学修身訓生徒用』巻之二（明治二五年九月二九日）・巻之三（明治二五年九月二八日）

巻頭に教育勅語を載せる。各話の本文は要点のみで、極めて短い。漢字平仮名交じり文語体の和装本だが、ページ付け。全四巻四冊。発行者は東京の大和田本人。

大和田建樹（一八五七～一九一〇）は高等師範学校教授を前年に辞職し、作詩、作詞に専念していた時期。既に「故郷の空」（明治二一年）などの作詞者として高名であったと思われる。絵は永峰秀湖。秀湖は会津藩の絵師永峰晴水の子で、幕末から大正期に活躍した松本楓湖の門人。

1 卷之二「第四」（A 10235）（絵）

2 卷之二「第五」（A 10235）（絵）

3 卷之三「第四」（A 133210235）（絵）

修小・小池民次著『尋常科
生徒用初学修身書』（明治二六年八月二七日）

嘉言を掲出し、その解説を付した後に例話を載せる。漢字平仮名交じり文語体の和装本だが、ページ付け。全八巻八冊。東京の至誠館刊。絵は名和永年。

小池民次（一八五八〜？）は浜松に生まれ、千葉師範学校を卒業し、後に千葉県立千葉高等女学校、私立一宮女学校の校長を歴任した。他に教育関係の著書を持つ。

- 1巻之三「第十一課 例話 かへる」(A 376) (絵)
- 2巻之四「第十一課 例話 鼠」(A 613) (絵)
- 3「第十二課 例話 強情なる馬」(A 186) (絵)
- 4巻之五「第十四課 例話 二匹の蛙」(A 43) (絵)
- 5（巻之六「第十二課 例話 山羊の注意」(21) (絵)
- 6巻之六「第十三課 例話 欲ふかき犬」(A 133) (絵)
- 7巻之七「第八課 例話 蟻ときりぎりす」(A 112・373) (絵)

- 8巻之八「第五課 例話 蝙蝠」(A 566) (絵)
- 9巻之八「第十四課 例話 欲 深き童子」(03) (絵)

修教1・教育学館編輯『聖徳
道徳尋常小学修身書 児童用』（明治二六年九月一日）

全四巻四冊。漢字平仮名交じり文語体の和装本。東京の大日本図書刊。第三巻を例に採れば、「孝道」「恭儉」

等の徳目を一つの章とし、その下位項目として、例えば「恭儉」であれば、「礼儀」「言語」「謹慎」「儉約」「改過」を立て、それぞれにいくつかの「訓戒」「格言」「例話」を示すといった構成になっている。その例話にイソップ寓話がある。なお第一巻は『児童用』を見ることができず、『教師用』によった。第一巻の『児童用』は絵のみと思われる。

教育学館の代表者は教育界の大立て者伊沢修二（一八五一〜一九一七）。教育学館の教科書については府川（二〇一四）七四〇ページ以下が詳しい。

- 1第一巻「第十九図」(05)
- 2第三巻「第五章恭儉 二言語」(A 613) (絵)

修梶・梶山弛一編『尋常
小学修身要訓 生徒用』（明治二六年一〇月二八日）

文語体の和装本。和本だがページ付け。首巻上は片仮名、首巻下は平仮名。巻四上までは確認できるが、全何巻何冊なのかは不明。梶山弛一は当時大阪在住であるが、東京の温故書院刊。

梶山は山口県出身で、滋賀県、大阪府で教育に従事していたかと思われる。修身書の他に地理書、作文書をつくつか編集している。

「緒言」に「彼ノ火ヲ弄ビテ家ヲ失ヒ或ハ人ヲ欺キテ狼ニ害セラル、例話ノ如キハ既ニ人口に鱸炙シテ訓誨ヲ施スノ好材料タルヲ以テ特ニ之ヲ緝録セリ」という記述

がある。「人ヲ欺キテ狼ニ害セラル、例話」とはいわゆる狼少年の話で、既に明治二六年において、これがよく知られていたことの貴重な証言である。

- 1 首巻上「第十三課 ウソイフ、コドモ。」(A 210) (絵)
- 2 首巻下「第七課 くりをとる、こども。」(03) (絵)

修教2…教育学館編輯『^{聖旨}尋常小学修身用画集』(明治二六年一月一七日)

〈修教1〉『^{聖旨}尋常小学修身書』(明治二六年)中の絵を集めたもの。絵に簡単な説明が付く。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の和装本。東京の大日本図書刊。(修教1)の第一巻一九図もイソップ寓話のほずであるが、これは掲載されていない。

- 1 「第三巻 三十九図」(A 613) (絵)

修教3…教育学館編輯『^{聖旨}尋常小学修身書^{長野県生徒用}』(明治二八年三月一二日)

〈修教1〉『^{聖旨}尋常小学修身書 児童用』(明治二六年)の改編本といえる。長野県生徒用が特別に作られた経緯は不明だが、同県は教育学館を主宰した伊沢修二の出身地である。文語体の和装本。主に漢字平仮名交じりだが一部片仮名交じり。全四巻四冊。東京の大日本図書刊。

- 1 第一巻「教訓図第十九 蛙、無慈悲なる戯をなす児童を誡しむ。」(05) (絵)

『教師用』に出典が『伊蘇普物語』と明記されている。2 第三巻「一言語 言フコトハ易ク、行フコトハ難シ。」

- (A 613) (絵)

修普1…普及舎編輯所訂正『訂正^{尋常}修身教典 生徒用』(明治三十一年二月八日)

巻頭に教育勅語を載せる。巻一は絵と格言のみ、巻二は敬体による口語体の和装本。全四巻四冊。東京の普及舎刊。普及舎及びその創設者辻敬之については府川(二〇一四)六二四ページ以下が参考になる。

- 1 巻一「第十七課 かめとうさぎ(一)」「第一八課 かめとうさぎ(二)」(A 226) (絵)

「ゆだんたいてき。」と格言を記す。

- 2 巻二「第二十一課 からすのじまん(一)」「第二十二課 からすのじまん(二)」(A 472) (絵)

修学1…学海指針社編『帝国修身訓』(明治三二年一月一二日)

イソップ寓話のある巻二は絵と平仮名口語体の簡単なせりふのみ。全八巻八冊。東京の集英堂刊。多種ある学海指針社編の教科書はそのほとんどが集英堂刊であり、両者は事実上一体であると思われる。集英堂は小林八郎が創設した教科書出版社。

- 1 巻二「第四課 鳩と蟻との話」(A 235) (絵)
- 2 巻二「第五課 蟻といなごとの話」(A 112・373) (絵)

3 卷二「第十四課 亀と兎」(A 226) (絵)

修普2…普及舎編輯所編『新編修身教典尋常小学校用』(明治三三年九月一九日)

卷一は絵と片仮名による格言のみ。卷二は平仮名口語体。和装本だがページ付け。全四巻四冊。東京の普及舎刊。

1 卷一「第十六課 かめとうさぎ」(A 226) (絵)
2 卷二「第廿二課 からすのじまん」(A 472) (絵)

修学2…学海指針社編『小学修身訓』(明治三三年九月二三日)

イソップのある巻一は絵と平仮名口語体による簡単な説明のみ。和装本。全四巻四冊。東京の集英堂刊。「教員用」には詳しい内容が記されているので、教員が細かに説明しながら授業を進めるのであろう。

1 卷一「第十四 亀と兎と」(A 226) (絵)
2 卷一「第二十二 鳩と蟻と」(A 235) (絵)
3 卷一「第二十三 蟻といなご」(A 112・373) (絵)

修金…金港堂書籍編輯『尋常小学単級修身訓』(明治三三年一月三一日)

甲篇と乙篇とに分かれる。両篇とも三巻三冊。単級用なので、全学年が同時に授業を受けられるように、同じ篇では三巻とも同一教材。当然同一教材であっても上級

に進むに従って内容は複雑になる。乙篇は『教員用』のみ見た。漢字平仮名交じり文語体の和装本。ただし巻一は絵のみ。東京の金港堂書籍刊。

奥付に「半古永洗画」とあるので、絵は梶田半古(一八七〇～一九一七)、富岡永洗(一八六四～一九〇五)の筆になるのであろう。両者とも当時既に人気の絵師であった。

1 甲篇「第十六課 蟻ときりぐす」(A 112・373) (絵)
2 乙篇「第七課 欲深き犬」(A 133)

修右…右文館編輯所『尋常小学実践修身訓 児童用』(明治三三年二月一三日)

巻頭に「勅語(教育勅語)」を載せる。イソップのある巻一は片仮名、巻二は漢字平仮名交じりの口語体で分かち書きされる。四巻四冊の和装本。東京の右文館刊。

右文館の代表者、須永和三郎は高等師範学校を卒業後、埼玉県師範学校で教え、右文館を創設する。須永については府川(二〇一四)七二六ページが参考になる。

1 卷一「第八課 よく の ふかい いぬ」(A 133) (絵)
本文は「ヨク ノ フカイ イヌ。」とあるのでみだが、絵からイソップ寓話とわかる。

2 卷二「第四課 うさぎ と かめ」(A 226) (絵)
3 卷二「第九課 あり と きりぎりす」(A 112・373)
4 卷二「第二十二課 かうもりの 二心」(A 566)

修文1…文学社編輯所編纂『小新修身尋常科教師用』(明治三四年一月一七日)

『生徒用』が所在不明のため、『教師用』を見た。巻一の各課は「本課の要旨」「絵画の説明」「説話」「教授上の注意」「設問」から成る。おそらく生徒用は絵だけと推定される。巻二は「本課の要旨」「生徒用本文」「例話」「教授上の注意」「設問」から成る。生徒用は絵と本文と推定される。「生徒用本文」は一文か二文のごく簡単なもので、教師が『教師用』の「例話」に基づいて詳しく説明して授業を進めるものと思われる。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。全四巻四冊。東京の文学社刊。

府川(二〇一四)七一〇ページに拠ると、文学社の代表、小林義則は東京師範学校を卒業後、明治一五年に文学社を創設する。

- 1巻一「第二十四 狐と野猪との話」(A 224)
- 生徒用には絵があるはず。
- 2巻二「第十四 蟻と鳩と」(A 235)
- 3巻二「第十五 にせの孔雀」(A 472)

修樋…樋口勘次郎・野田滝三郎合著『尋常修身教科書入門』(明治三四年五月一七日)

巻一はタイトル以外は絵のみ。巻二は絵と簡単な口語体の標語(例えば2であれば「おんをしる」)のみ。巻一は片仮名、巻二は平仮名の和装本。全二巻二冊。東京の金港堂書籍刊。

樋口勘次郎(一八七二～一九一七)は新進の教育学者で、当時はヨーロッパに留学中。高名な樋口の名があるが、実質的な著者は野田滝三郎独りか。野田の著書は調べた限りでは樋口との共著ばかりである。

- 1巻一「十五 ハトトアリ」(A 235)(絵)
- 2巻二「十 ねづみのおんがへし」(A 150)(絵)
- 3巻二「十五 うさぎとかめ」(A 226)(絵)

修育2…育英舎編輯所編纂『尋常修身教本』(明治三四年六月二六日)

巻一は絵のみ、巻二は絵と平仮名の簡単な文。口語体による全四巻四冊の和装本。東京の育英舎刊。

- 1巻一「第二十三課」(A 112・373)(絵)
- 『生徒用』は無題だが、『教師用』には「蝗と蟻」のタイトルがある。
- 2巻二「第一課 かめとうさぎ」(A 226)(絵)
- 3巻二「第三課 おんをかへせ」(A 235)(絵)

修文2…文学社編輯所編纂『尋常日本修身書』(明治三四年七月七日)

巻一は絵のみ、巻二は平仮名のみによる敬体の口語体和装本。全四巻四冊。東京の文学社刊。

- 1巻一「第二十 亀と兎」(A 226)(絵)
- 2巻二「第八 鳥」(A 472)(絵)

修普3…普及舎編輯所編『^新修身教典^{尋常小学校}』（明治三五年八月五日）

《修普2》『^新修身教典^{尋常小学校}』（明治三三年）の訂正三版だが、内容に若干の相違がある。巻頭に教育勅語を載せる。巻一は絵のみだが、目次は片仮名使用。巻二は絵に、平仮名による口語体の簡単な説明が付く。全四巻四冊の和装本だがページ付け。東京の普及舎刊。
1巻一「ダイ十七 カメトウサギ」（A 226）（絵）
2巻二「だい十八 からすのじまん」（A 472）（絵）

修光…国光社編輯所著『国民修身書^{尋常小学校}』（明治三五年八月一日）

巻一は絵のみ。巻二は、絵に加え平仮名口語体による説明、片仮名による嘉言が付く。全四巻四冊の和装本だがページ付け。東京の国光社刊。

- 1巻一「十三 はちとすゞむし」（A 112・373）（絵）
- 2巻一「十七 はとゝあり」（A 235）（絵）
- 3巻一「二十一 二ひきのかへる」（A 69）（絵）
- 4巻一「二十五 かめとうさぎ」（A 226）（絵）
- 5巻一「二十九 からすのかざり」（A 101）（絵）
- 6巻二「だい十六 ひやくしよーとつばめ」（A 194）（絵）
- 7巻二「だい二十五 木こりととしより」（A 173）（絵）

修国二…文部省著作『尋常小学修身書』（第二期国定）（明治四三年三月一五日）

第二期の国定教科書。巻一は片仮名口語体。全六巻六冊。洋装本。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。他に『教師用』『複式編制学校児童用』『同教師用』がある。

- 1巻一「三 ベンキヤウ セヨ」（A 226）（絵）
居眠りするウサギと先を行くカメの絵のみ。
- 2巻一「十九 ウソ ヲ イフナ」（A 210）（絵）
本文は「コノ コ ハ タビタビ ウソ ヲ イツタカラ、ダレ モ タスケテ クレマセン。」とあるのだが、絵では子どもが狼に追いかけている。

修国三…文部省著作『尋常小学修身書』（第三期国定）

巻一（大正七年二月五日）・巻二（大正七年二月一五日）

第三期の国定教科書。巻一、二は片仮名口語体。全六巻六冊。洋装本。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。他に『教師用』がある。

- 1巻一「三 ナマケルナ」（A 226）（絵）
絵のみ。（修国二 1と同じ。）
- 2巻一「十九 ウソ ヲ イフナ」（A 210）（絵）
本文は「コノ コ ハ タビタビ「オホカミ ガキタ。」トイツテ、人ヲ ダマシマシタ。ソレデ ホンタウニ オホカミ ガデテキタ トキ、ダレ モ タスケテクレマセン デシタ。」とイソップ寓話であることが（修国二）2よりも明確になる。
- 3巻二「七 ジマン スル ナ」（A 281）（絵）

修国四…文部省著作『尋常小学修身書』（第四期国定）（昭和八年二月二八日）

第四期の国定教科書。巻一、二は片仮名口語体。全六巻六冊。洋装本。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。他に教師用がある。

1 巻一「十四 ウソヲイフナ」（A 210）（絵）
2 巻二「十一 ナマケルナ」（A 112・373）（絵二図）

2 国語教科書

イソップ寓話を最も多く掲載する教科書の分野は、初等教育段階の読本を中心とする国語教科書である。小学校低学年あるいは尋常小学校と、高学年あるいは高等学校とでは採用される寓話の傾向に違いが見られる。

国田 1…田中義廉編集『小学読本』（初版本）（明治六年三月）・田中義廉編輯『小学読本』（大改正本）（明治七年八月改正）

近代の国語教育の出発点となる教科書。両本とも種々の版がある。前者の表紙には「文部省編纂」とある。那珂通高（一八二八～一八七九）が手を入れた後者の「大改正本」では表現が変えられる。絵も異なる。後者の表紙には「文部省師範学校編輯」とあるが、巻頭には「田中義廉編輯 那珂通高校正（訂正とも）」とあり、柱記には「師範学校」とある。両本とも全四巻四冊で、漢字平仮名交じり文語体の和装本。『小学読本便覧』第一巻に解説がある。また府川（二〇一四）二五三ページ

以下が詳しい。イソップのある巻二は大部分がアメリカ Harper 社刊の *Marcus Wilson* による *School and Family Readers* の抄訳。

田中義廉（一八四一～一八七九）は英語、フランス語に通じ、当時文部省に出仕していた。退官した後も多く

の教科書編集に携わる。
1 巻二「第四」（A 210）（絵）
2 巻二「第五」（A 210）（絵）

国福…福沢英之助訳『初学読本』（明治六年五月）

府川（二〇一四）に拠ると、英語の三種のリーダーから適宜材料を抜き出して翻訳し、読本として編集したらしい。刊記はないが、見返しに「明治六年五月／福沢英之助版」とある。漢字片仮名交じりの文語体の和装本。本書については府川（二〇一四）九九ページ以下が詳しい。

福沢英之助（？～一九〇〇）は中津藩出身で本名和田慎次郎。慶応二年（一八六六）の幕府の留学生としてイギリスに渡る際に同郷の福沢諭吉の弟と称して福沢姓を名乗った。帰国後 G.F. Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables* の抄訳『訓蒙話草』（明治六年）を出版している。

1 「童子及ヒ狼ノ事」3ウ（A 210）
府川（二〇一四）に拠ると、*Wilson Reader* に基づく。

国市…市岡正一著『女学読本』（明治八年一月二七日版權免許）

序文や跋文が一切ないので、出版の趣旨は不明だが、女子生徒用の読本教科書を企図しているのであろう。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全三巻三冊。東京の錦耕堂刊。

市岡正一は、この前後に多くの教科書を出している。明治一三年から一五年には民法編纂局書記官であり、その後も多くの法律関係書を著している。明治三十年代には東京府の大久保村村長に就いている。

- 1巻二「第一」(05) (絵)
- 2巻二「第一」(A472) (絵)
- 3巻二「第一」(A210) (絵)
- 4巻三「第三」(A42) (絵)

国田2…田中義廉編『小学読本』(私版本)(明治一〇年三月)

明治六年一二月に文部省を辞めた田中義廉が(国田1『小学読本』(明治六年)に基づきつつ新たに読本教科書を編じたのが本書。全六巻六冊。巻五・六は理科的読み物。漢字平仮名交じり文語体の和装本。柱記に「猫窠書屋」とあるが、版により、刊記に「田中義廉蔵版」あるいは「出版人 内藤伝右衛門」「蔵板人 田中古登」(田中義廉と同住所)とあったり、「発兌書肆」として、「文会舎 西洋平」あるいは「内藤伝右衛門」「文会舎」を含む九者を挙げるものなど版により区々である。先に作った初版本よりも「優る所有るに似たり」と扉に記し(これのない版もある)、田中にとつては文部省を離れ

て己の望むように作った思いなのだろう。収録のイソップ寓話は(国田1)と同じ。ただし文章は初版本とも大改正本とも小異がある。

田中については(国田1)の項に記した。

- 1巻二「第六回」(A325)
- 2巻二「第十二回」(A210)

国鳥…鳥山啓編輯『初学入門』(明治一〇年九月)

和漢洋の逸話を載せるが、各話はごく簡単な記述である。漢字平仮名交じり文語体の和装本。扉に「和歌山県学務課蔵版」とあるが、刊記には「翻刻人 松本善助」(松本は大阪在住)とある。明治一六年には上下二冊でも刊行されている。

鳥山啓(一八三七―一九一四)は「軍艦行進曲(軍艦マーチ)」の作詞者、また南方熊楠の師として知られるが、当時は和歌山師範学校の教員である。鳥山の功績については府川(二〇一四)七六ページ以下が、本書については府川(二〇一四)三九九ページ以下が詳しい。

- 1「第二十一章」(A563)
- 2「第二十四章」(A150) (絵)

明治一六年版の絵は構図の同じ別図。

国久…久松義典『新撰小学読本』巻二・三(明治一三年二月)

明治期の大手教科書会社金港堂が手がけた最初の小学校読本用教科書である。漢字平仮名あるいは片仮名交じ

り文語体の和装本。

久松義典（一八五五～一九〇五）は当時栃木県師範学校教員。久松については府川（二〇一四）四五五ページ以下が、本書については府川（二〇一四）四五八ページ以下が詳しい。

1 卷二「第二十六章」（A 426）

2 卷三「第七章」（A 65）

国辻・辻敬之・小池民次著『初学読本』（明治一四年四月一日）

正・続の二編二冊。漢字平仮名交じり文語体の和装本。「出版人」は辻敬之自身である。辻は翌年に普及舎という出版社を創設している。

辻については府川（二〇一四）六二四ページが詳しい。小池民次については〈修小〉『尋常科
生徒用初学修身書』（明治二六年）の項に記した。

1 続篇「蟻といなごの問答」14才（A 112・373）

国中島・中島操・伊藤有隣編輯『小学読本』卷之三（明治一四年一二月二六日）・卷之六（明治一五年二月二六日）

和漢洋の小話で構成されている。漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全七卷七冊。栃木の集英堂刊。本書については府川（二〇一四）四一一ページ以下が詳しい。

中島操は栃木県師範学校教員。中島、伊藤は共に小学生向けの教育書をいくつか出している。

1 卷之三「第七回」27ウ（05）

2 卷之四「第六回」17才（A 112・373）

3 卷之五「第三回」13才（A 176）

4 卷之六「第四回」13才（A 112・373）

国内1・内田嘉一纂述『小学中等科読本』（明治一五年五月二〇日版權免許）

読み物だけでなく、歴史・地理・理科的な教材も含む。

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。東京の金港堂刊。以下がイソップ由来だが、しばしば改変する。絵は松本楓湖。なお卷三「第十九課 蜘蛛モ亦人ニ益アリ」は鈴木青溪『新訳伊蘇普物語』（明治二五年）下二八話と同じだが、イソップとは認めがたい。

内田嘉一（一八四八～一八九九）は慶応義塾の出身。

教科書の他、啓蒙的な著訳書が多い。

1 卷一「第廿一課 恩ヲ受ケテハ必ズ忘ルヽ勿レ」（A 175）

2 卷二「第十四課 甘ヲ分タザレバ苦ヲ共ニセズ」（A 67）

3 卷二「第十七課 胃ヲ悪テ手足等労働セズ」（A 130）

4 卷二「第廿六課 迂翁驢馬ヲ販ク」（A 721）（絵）

5 卷四「第二課 獅子ハ百獣ノ王」（A 563）（絵）

6 卷五「第廿三課 蝙蝠論」（A 566）

7 卷六「第十七課 事皆中庸ヲ得ンヲ要ス」（A 569）

国字…宇田川準一訳『小学読本』卷之三（明治一五年九月）・卷之五（明治一五年一〇月）

小笠原東陽校。Marcus Willson による *School and Family Readers* の翻訳。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全五卷五冊。卷之六の草稿がある。東京の文学社刊。本書については府川（二〇一四）三〇八ページ以下が詳しい。

宇田川潤一（一八四八～一九一三）は東京師範学校教員、群馬県師範学校教頭となり、物理学関係の著訳書が多い。

- 1 卷之三「第五課 第十」（A 05）
- 2 卷之五「第十課 第十二」（A 325）
- 3 卷之五「第十課 第十四」（A 210）

国池…池田観編輯『新撰小学読本 中等科』（明治一六年七月）

三尾重定刪定、福羽美静閱。理科的な内容が多い。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。大阪の東崖堂刊。

池田観には歴史書、漢文関係の編著がある。

なお、回のナンバーは、巻を超えての通し番号。

- 1 卷一「第二回」（A 173）
- 2 卷一「第四回」（A 412）
- 3 卷一「第四回」（A 157）
- 4 卷一「第六回」（A 04）

- 5 卷一「第六回」（A 213）
- 6 卷二「第八回」（A 38）
- 7 卷二「第九回」（A 627）
- 8 卷二「第十回」（A 294）
- 9 卷二「第十一回」（A 179）
- 10 卷二「第十三回」（A 112・373）
- 11 卷二「第十四回」（A 521）

国原…原亮策纂述『小学読本 初等科』卷四（明治一六年一〇月）・卷五（同九月一〇日）

広く使用され、明治十年代の初等科の代表的な国語教科書だといわれる。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。東京の金港堂が〈国久〉『新撰小学読本』（明治一三年）に続いて手がけた小学読本。本書については府川（二〇一四）四六二ページ以下が詳しい。

原亮策は金港堂の社主原亮三郎の長男で、明治二年生まれ。当時数え一五歳であり、府川（二〇一四）は亮策が実際の纂述者かどうか疑問を呈している。

- 1 卷四「第一課 亀とうさぎ」（A 226）
- 2 卷四「第二十七課 行ひをもて示せ」（A 322）
- 3 卷四「第三十課 治に居て乱を忘ることなかれ」（A 224）
- 4 卷四「第三十六課 欲ふかければ物を失ふ」（A 133）
- 5 卷四「第四十五課 用なきものは宝に非ず」（A 503）
- 6 卷五「第十一課 虚言実をあやまる」（A 210）
- 7 卷五「第二十八課 蠅のいましめ」（A 80）

- 8巻五「第三十三課 みめよきはとるに足らず」(A 499)
 9巻五「第三十五課 小鳥の至言」(A 627)
 10巻五「第三十九課 おのが力をはかれ」(A 230)
 11巻五「第四十四課 蟻恩を報ず」(A 235)
 12巻五「第四十五課 農夫の遺訓」(A 42)

国若・若林虎三郎編『小学読本』(明治一七年六月二〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全五巻五冊。「出版人」は東京の嶋崎礒之蒸。本書については府川(二〇一四)四七〇ページ以下が詳しい。『小学読本便覧』第二巻に解説がある。

若林虎三郎(一八五五〜一八八五)は東京師範学校卒業後同校訓導となって教育に従事する。

- 1 第三「第十一課 鳥の話」(A 390)(絵)

国阿・阿部弘蔵纂述『小学読本』(明治一七年一月五日版権免許)

漢字片仮名交じりの文語体の和装本。全六巻六冊。東京の金港堂刊。イソップに由来する一五話が載る。

阿部弘蔵は旧幕臣で、開成所の教授を務める。彰義隊に加わりその名付け親だという。維新後は慶應義塾に入り、その後文部省に出仕する。(修丹)『通普小学修身談』(明治一九年)の校閲者でもある。阿部は金港堂から『修身読話』という口語体の児童向け読み物を三年後の明治二〇年に出している(拙稿「明治期の寓話集等に載った

イソップ寓話 補遺」(『イソップ資料』第一五号)参照)。1・2・3・4・5・8・9・10・11・12は『修身読話』にもあるが文章は異なる。

- 1 一卷「第二十九章」(A 499)
 2 一卷「第五十八章」(A 112・373)
 3 二巻「第四章」(A 42)
 4 二巻「第十五章」(A 472)
 5 二巻「第三十七章」(A 230)
 6 二巻「第四十八章」(A 43)(絵)
 7 二巻「第六十五章」(A 67)
 8 三巻「第五十一章」(A 91)
 9 四巻「第十六章」(A 521)
 10 四巻「第三十七章」(A 566)
 11 五巻「第十六章」(A 65)
 12 五巻「第二十五章」(A 613)
 13 五巻「第三十七章」(A 346)
 14 五巻「第四十章」(A 627)
 15 六巻「第二十四章」(A 563a)

国塚靖1・塚原靖編輯『小学中等課児読本』(明治一八年二月一日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全三巻三冊。東京の教育書房錦森閣刊。

塚原靖(一八四八〜一九一七)は、後には渋柿園の名で知られる小説家。渡部温が教官であった沼津の兵学校

で学んでいる。

1 巻一「〇朋友ト熊」16ウ (A 65)

国吉静・吉田静撰『女児読本 下等科』(明治一八年二月二五日)

女子児童用の読本。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全五巻五冊。出版人は吉田静自身の他に東京の林武運、長谷川赤。吉田については不明。以下の二例とも出典を「伊蘇普物語」と明記している。

1 巻の五「第十」(A 133) (絵)

2 巻の五「第三十二」(A 390) (絵)

国普1・普及舎著『読本』(明治一八年五月)・普及舎著『^校読本』(明治一八年六月)

漢字平仮名交じり文語体の和装本。ただしページ付け。全六巻六冊。東京の普及舎刊。後者は稲垣千穎閲。前者とほとんど変わらない。

1 第四「二十六」(05)

2 第五「三十一」(A 235)

国鈴・鈴木幹興・三田利徳編輯『啓蒙小学読本』(明治一八年六月一八日)

亀谷省軒閲。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全五巻五冊。東京の光風社刊。

鈴木幹興、三田利徳には教科書、児童向け教育書などがいくつかある。

1 巻五「第二十七」(A 42)

2 巻五「第三十三」(A 133)

国塚靖2・塚原靖撰『女子読本』(明治一八年九月二二日 版權免許)

女子児童用で、「黔婁の妻」(巻一)、「王湛の妻」(巻二)といった教材の選択にそれらしい配慮が見られる。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全五巻五冊。東京の金港堂刊。

塚原靖については(国塚靖1)の項に記した。

1 巻一「〇第十九課 正直の徳」(A 173)

2 巻二「〇第十五課 捕鳥奴 喻言」(A 265)

3 巻六「〇第十二課 小禽の金言 寓言」(A 627)

国井上1・井上蘇吉編『小学読本』(六巻本) 卷之三(五(明治一八年九月)

杉浦重剛校閲。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。「編者兼出版人」として「井上蘇吉」「沢屋蘇吉」の名が並んでいる。両者の住所は同一である。一八八〇年代九〇年代には「沢屋蘇吉」を出版人とする書籍がいくつかある。「沢屋」は出版活動を行う際の屋号か。本書については府川(二〇一四) 六〇二ページ以下が詳しい。

井上蘇吉は著訳書をいくつか持つ。

- 1 卷之三「第十一課 鴉と水瓶との話」(A 10390)
- 2 卷之三「第十三課 牧童と狼との話」(A 21039)
- 3 卷之三「第二十五課 摩利支天と農夫との話」(A 291)
- 4 卷之四「第十二課 僧父の戒」(A 53)
- 5 卷之四「第十八課 二人の朋友と熊の話」(A 65)
- 6 卷之四「第二十課 農夫と鴻との話」(A 194)
- 7 卷之五「第四課 鳥と獣との戦の話」(A 130566)
- 8 卷之五「第七課 胃腑と支体との話」(A 130566)

国新1…新保磐次著『日本読本』(明治一九年二月一五日版権免許)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。東京の金港堂刊。本書については府川(二〇一四)四八一ページ以下が詳しい。『小学読本便覧』第三卷に解説がある。

新保磐次(一八五六—一九三二)は高等師範学校教授の後、金港堂に入社し教科書編集に携わる。

- 1 第二「雞と狐。」20ウ(A 671)(絵)
- 2 第四「宝。」25オ(A 42)
- 3 第四「樗卜葦。」30ウ(A 70)

国三尾…三尾重定編『新小学読本』(明治一九年三月)

福羽美静閣。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。各卷上中下とあり、全三卷九冊。東京の教育書院刊。

三尾重定は教育書を多く著している。

- 1 第二の中「第五」(A 210)(絵)
 - 2 第三の上「第一」(A 13021)
 - 3 第三の上「第四」(A 255)(絵)
- A 255「蚊とライオン」の前半のみ。

国井田…井田秀生著『国民読本』卷二・四(明治一九年四月)

教材により平仮名あるいは片仮名交じりの文語体の和装本。全四卷四冊。「出版人」として東京の吉川半七、牧野善兵衛の外鴻巢の長嶋為一郎の名が挙がっている。本書については府川(二〇一四)六〇七ページ以下が詳しい。

- 井田秀生は教育書をいくつか出している。
- 1 卷二「第十四」(05)
- 2 卷四「第十四」(A 426)

国竹…竹下権次郎編纂『小学読本』(明治一九年四月)

第二卷、第三卷は上下があり、三卷五冊。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。東京の中近堂刊。

- 竹下権次郎は「時事新報」の記者。
- 1 第三卷下「第三十五 油断大敵」(A 226)(絵)
 - 2 第三卷下「第四十三 慾に迷ふ者は却て損す」(A 133)

国塚苔…塚原苔園撰『^新読方書』（明治一九年六月一日版権免許）

表紙にローマ字書きがあり、それによると書名は「しんたいとくほうしょ」である。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。各巻上下に分かれており、全四巻八冊。東京の石川教育書房刊本と大阪の前川書房刊本とがある。どちらも柱記には「錦森閣蔵」とあり、同版と思われる。本書については府川（二〇一四）六三〇ページ以下が詳しい。

塚原苔園は教育書を多く出している。

1巻四の上「〇第八課」（A 65）

国工…工藤精一編『新読本』（明治一九年九月）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の洋装本。全六巻六冊。「出版人」は東京の大倉保五郎。

工藤精一には英語からの翻訳書がいくつかある。

1五「第九 兎と亀」（A 226）（絵）

2六「第四 旅人と熊」（A 65）（絵）

3六「第八 羊」（21）（絵）

国吉賢…吉田賢輔編述『初学読本』（明治一九年一〇月）

本居豊顕校訂。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の汎愛堂刊。

吉田賢輔（一八三八～一八九三）は慶應義塾の創設にも関わり、塾長となった人物。

1巻四「第十六 小児と菓子」（03）（絵）

2巻四「第十九 欲深き犬」（A 133）（絵）

3巻四「第二十 子供と蛙」（05）（絵）

4巻六「第二 鳥の話」（A 390）（絵）

5巻六「第四 正直の童子」「第五 不正直の童子」（A 173）（絵）

6巻六「第十四 熊ノ話」（A 65）（絵）

国佐1…佐沢太郎編纂『尋常小学第一～四読本』（明治一九年一月九日）

塚達校閲。漢字平仮名交じりもあるが多くの片仮名交じり文語体の和装本。各巻上下に分かれ、全四巻八冊。東京の文栄堂刊。

佐沢太郎については

（修佐）『^{普通}小学修身口授書』（明治

一九年）の項に記した。

1第四読本上巻「第三課 鴉の話」（A 390）（絵）

国内2…内田嘉一纂述『^{増訂}小学読本』（明治一九年一月一九日改題御届）

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂刊。巻一、二、六は、それぞれ「国内1」『小学中等科読本』（明治一五年）の巻一、二、四と同内容。絵も同じく松本楓湖。

内田嘉一については「国内1」に記した。

1巻一「第廿一課 恩ヲ受ケテハ必ズ忘ル、勿レ」（A

175)

2 卷二「第十四課 甘ヲ分タザレバ苦ヲ共ニセズ」(A

67)

3 卷二「第十七課 胃ヲ悪テ手足等労働セズ」(A 130)

4 卷二「第廿六課 迂翁驢馬ヲ販グ」(A 721) (絵)

5 卷四「第四課 童子銭ヲ失フ」(A 173)

6 卷四「第廿四課 他力ニ依ル者ハ必ズ奴ト為ル」(A

269)

7 卷四「第廿五課 大言倨傲ヲ慎メ」(A 188)

8 卷六「第二課 獅子ハ百獸ノ王」(A 563) (絵)

9 卷七「第廿三課 蝙蝠論」(A 566)

国高橋1…高橋熊太郎『普通読本』(明治一九年一月)

各編上下あり、全四編八冊。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。出版人は東京の小林八郎。本書については府川(二〇一四)六一一ページ以下が詳しい。画は松本楓湖、小林聖湖。

府川(二〇一四)に拠ると高橋熊太郎は栃木県の教員であつたらしい。教科書、教育書をいくつか著している。

1 四編上「第二十課 烏ノ話」(A 390) (絵)

2 四編上「第二十三課 老農子ヲ戒ム」(A 42)

国内3…内田嘉一編輯『実用読本 尋常科』(明治二〇年三月)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。「出版人」として鴻巣の長島為一郎、

東京の牧野善兵衛、吉川半七の名があるが、見返しには「教育書屋蔵」、柱記には「三書房蔵」と記されている。三名は(国井田)『国民読本』(明治一九年)の出版人でもある。

内田嘉一については(国内1)『小学中等科読本』(明治一五年)の項に記した。

1 卷四「第四十三課 狐ト樵」(A 22) (絵)

2 卷五「第七課 農夫ト鴻」(A 194) (絵)

3 卷五「第十四課 樗と葦」(A 70)

4 卷五「第十八課 烏と狐」(A 124)

5 卷五「第二十一課 蟻ト阜蝨」(A 112・373)

国文部1…文部省編輯局編纂『尋常小学読本』(明治二〇年四月二九日版權所有届)

文部大臣森有礼、編輯局長伊沢修二の下で作られた教科書。漢字平仮名交じりの和装本。卷一は敬体の口語体、卷二以降は文語体を用いる。全七卷七冊。文部省編輯局刊。編輯主任は尺秀三郎。府川(二〇一四)五二四ページ以下が詳しい。『小学読本便覧』第二卷に解説がある。尺(一八六二〜一九三四)は後に東京外国語学校教授となる教育学者。

1 卷之一「第九課」(A 605) (絵)

2 卷之二「第十九課 欲 ふかき 犬 の 話」(A 133) (絵)

3 卷之三「第十六課 ほねをしみせし 馬 の 話」(A 180) (絵)

4 卷之四「第二十三課 鹿の水鏡」(A 74) (絵)
5 卷之七「第十三課 蟻と鳩との話」(A 235)

国佐2…佐沢太郎編集『高等小学第一〜四読本』(明治二〇年五月一三日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。第一読本から第四読本まであり、各上下に分かれ全八冊。東京の文栄堂刊。

佐沢太郎については〈修佐〉『普通
小学修身口授書』(明治一九年)の項に記した。

1 第二読本上巻「第八課 和睦の必用」(A 130)

2 第二読本上巻「第十四課 児供と蛙との話」(O 5)

国高橋2…高橋熊太郎編『高等
科用普通読本』(明治二〇年五月)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。各編上下に分かれ全四編八冊。東京の集英堂刊。

高橋熊太郎については〈国高橋1〉『普通読本』(明治一九年)の項に記した。

1 二編上「第十課 身体ノ機関 其三 消化」(A 130)

国西邨…西邨貞著『幼学読本』(明治二〇年五月)

多くは漢字片仮名交じり、一部は平仮名交じり文語体の和装本。八巻八冊。東京の金港堂刊。府川(二〇一四)四九四ページ以下が詳しい。『小学読本便覧』第三巻に

解説がある。

西邨貞(一八五四〜一九〇四)は教育者、教育理論家として有名。

1 第二「第十六課。キツネ ト カラス。」(A 124) (絵)

2 第四「第十四課。欲深キ 犬。」(A 133) (絵)

3 第四「第二十課。狐 ト ネコ。」(A 605) (絵)

4 第五「第五課。獅子 ト 鼠。」(A 150) (絵)

5 第五「第九課。ゆだん 大敵。」(A 226) (絵)

国中原1…中原貞七編集『新定読本』(明治二〇年六月八日版權免許)

漢字平仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。掲載イソップ寓話は改変が目立つ。絵は永峰秀湖。

中原貞七(一八五八〜?)は盛岡で南部藩士の家に生まれる。明治一六年東京大学卒業後は主に東京の成立学舎の舎長として教育界で活躍する。

1 五「第二課」(A 426) (絵)

2 五「第三課」(A 613) (絵)

3 五「第九課」(A 65) (絵)

4 六「第五課」(A 451) (絵)

5 六「第十三課」(A 285) (絵)

6 八「第十四課」(A 173) (絵)

国中原2…中原貞七編集『高等読本』(明治二〇年六月八日版權免許)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。掲載イソップ寓話は改変が目立つ。絵は永峰秀湖。

中原貞七については〈国中原1〉『新定読本』（明治二〇年）の項に記した。

1巻一「第二十八課 蛙ノ不信実」（A 384）（絵）

2巻二「第七課 家鼠及ビ野鼠」（A 352）

3巻二「第二十八課 獅子恩ヲ知ル（一）」「第二十九課 獅子恩ヲ知ル（二）」（A 563）

4巻五「第二十八課 傲慢ナル驢馬」（A 188）

国中川…中川重麗編纂『尋常小学明治読本』（明治二〇年七月一九日）

教材により平仮名あるいは片仮名交じり文語体の洋装本。全八巻八冊。京都の二酉楼と大阪の積小館の両者による刊行。

中川重麗（一八五〇～一九一七）は教員の後、俳句また児童文学の分野で活動する。

1巻二「第三十五」（A 472）

2巻四「第四」（A 210）

3巻四「第九」（A 499）

4巻六「第九 狐と野猪」（A 224）

5巻七「第廿二 蟻と昆虫」（A 112・373）

国下…下田歌子著『国文小学読本』四之巻（明治二〇年八

月一日）

高崎正風・末松謙澄校閲。漢字平仮名交じりで、文語体が多いが口語体もある。和装本。全八巻九冊（一の巻は上下二冊）。東京の十一堂刊。本書については府川（二〇一四）六三七ページ以下が詳しい。

当時の下田歌子（一八五四～一九三六）は華族女学校の学監であり、まださほど高名ではなかったと思われる。それ故に校閲者として男爵高崎、ケンブリッジ大学帰りの末松の名が必要だったのであろう。

1四之巻「第二十一 蜻蛉と蟻とのはなし」（A 112・373）敬体の口語体。

国中根1…中根淑・内田嘉一合著『簡易小学読本』（明治二〇年九月）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。五巻五冊。東京の金港堂刊。

中根淑（一八三九～一九一三）は沼津兵学校の教員も務めた漢学者だが、当時は金港堂の幹部であった。内田嘉一については〈国内1〉『小学中等科読本』（明治一五年）の項に記した。

1巻二「第二十七課」（A 390）

〈国中根2〉1と同文。ただし表記は異なり、漢字片仮名交じり。

2巻四「第九課 農夫の遺言」（A 42）

国岡・岡村増太郎編述『小学高等読本』（明治二〇年一〇月）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。各巻上下に分かれており、全四巻八冊。「出版人」は東京の阪上半七。

岡村増太郎については〈修岡〉『尋常修身教科書』（明治二五年）の項に記した。

1巻一下「第二 胃ヲ悪ンデ手足等労働セズ」（A 130）

国植・植村善作著『尋常温習読本』（明治二〇年一月）

当時地域によつては置かれた温習科のための読本教科書。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全上下二冊。東京の普及舎刊。

植村善作は『簡易小学読本』という教科書を普及舎から出していることが知られるだけである。

1上「第三章 少女の妄想」（〇1）（絵）

2下「第十七章 胃と四体との寓言」（A 130）

国中根2・中根淑・内田嘉一同著『小学簡易科読本』（明治二〇年一二月）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。東京の金港堂刊。

中根淑については〈中根1〉『易小学読本』（明治二〇年）、内田嘉一については〈国内1〉『小学中等科読本』（明治一五年）の項にそれぞれ記した。

1巻三「第二十六課」（A 390）

〈国中根1〉1と同文。ただし表記は異なり、漢字平仮名交じり。

国小松・小松忠之輔編輯『尋常読本』（明治二〇年一二月）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。「出版人」は東京の内藤恒右衛門。山梨の温故堂版もある。本書については府川（二〇一四）六七八ページ以下が詳しい。

小松忠之輔は、明治二〇年東京の第一寺島小学校長に就いている。また『参考小学修身叢談』（明治二〇年）という教師用指導書を温故堂から出している。

1巻六「第五課 鼠の話」（絵）「第六課 前課の続き」（A 352）

国島・島崎友輔編輯『初学第一〜八読本』（明治二二年一月一七日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八冊。東京の興文社刊本と大阪の前川善兵衛が出版人となっている本とがある。どちらも柱記には「錦森閣蔵」とあり、本文は同版。本書については府川（二〇一四）六九二ページ以下が詳しい。

島崎友輔（柳塙）（一八六五〜一九三七）は後に日本画家として名を成す。

1第七「第六 農夫ノ遺言」（A 42）

2 第八「第八 羊」(21)

国木・木沢成肅・丹所啓行編輯『簡易小学読本』(明治二年二月一八日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。出版人は東京の阪上半七と石塚徳次郎で見返しには「二書堂蔵梓」とある。

木沢成肅には修身、読本の教科書他多数の著書がある。丹所啓行については(修丹)『通小学修身談』(明治一九年)の項に記した。

1 巻四「第十二課 蜜蜂ト阜蝨ノ話。」第十三課 其二。(A 112・373)

2 巻五「第十七課 牛をまねる墓。」(A 376) (絵)

国東・東京府庁編『小学読本』巻三・四(明治二年四月四日)

漢字平仮名あるいは片仮名交じりで、文語体あるいは口語体の和装本。全八巻八冊。柱記には「東京府」とあり、「発行兼印刷人」としていずれも東京の文海堂・文玉圃・文学社・中央堂の名が挙がっている。画は小林聖湖。本書については府川(二〇一四)五六七ページ以下が詳しい。

1 巻三「第十八課」(A 210)

2 巻三「第二十五課」(A 124) (絵)

3 巻四「第二課 無益の殺生をすな」(05)

国三宅・三宅米吉・新保磐次同著『高等日本読本』(明治二年五月九日)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂刊。

三宅米吉(一八六〇〜一九二四)は後に東京文理科大学初代学長となる歴史学者だが、当時は金港堂の幹部社員であった。新保磐次については(国新1)『日本読本』(明治一九年)の項に記した。

1 巻一「三、烏ト狐。」(A 124)

2 巻一「十五、狐。」(A 15)

3 巻一「十九、珍シキ道行。」(A 721)

4 巻一「廿二、獅子。」(A 563)

5 巻二「三、偽ルコト勿カレ。」(A 210)

6 巻二「十、身体ノ争ヒ。」(A 130)

国井上2・井上蘇吉編纂『小学読本』(八巻本) 卷之二・卷之七(明治二年六月二一日)

杉浦重剛校閲、諏訪慎訂正。(国井上1)『小学読本』(六巻本)(明治一八年)の改訂版。多くは漢字平仮名ときに片仮名交じり文語体の和装本。首巻プラス七巻八冊。東京の敬業社刊。なお巻之六「第三十一課」は出典が「伊蘇普物語」と明記されているが、同一の話はインッブ寓話に見出せない。本書については府川(二〇一四)六〇六ページ以下が詳しい。

井上蘇吉については(国井上1)の項に記した。

- 1 卷之二「第十八課」(A 414)
- 2 卷之二「第二十二課 牧者と犬の話」(A 365)
- 3 卷之二「第三十四課 妄言は人の禍」(A 168)
- 4 卷之二「第五十三課 貪欲は無欲の話」(A 133)
- 5 卷之三「第三十九課 兎と亀との話」(A 226)
- 6 卷之三「第四十三課」(03)(絵)
- 出典が「伊蘇普物語」と明記されている。
- 7 卷之三「第四十四課」(A 32)
- 出典が「伊蘇普物語」と明記されている。
- 8 卷之三「第四十六課」(A 319)
- 9 卷之四「第九課」(A 112・373)
- 10 卷之四「三十四課」(A 503)
- 11 卷之四「第四十二課 鴉と水瓶の話」(絵)(A 210)
- 12 卷之五「第十五課 牧童と狼との話」(絵)(A 213)
- 13 卷之六「第二十三課 農夫と鴻の話」(A 194)
- 14 卷之七「第四課 蝙蝠世渡りの狭き話」(A 566)
- 15 卷之七「第七課 胃腑と支体との話」(A 130)

国新2…新保磐次・林吾一同著『^{温習}日本読本』(明治二十一年八月二〇日)

地域によっては置かれた温習科用の読本教科書。漢字片仮名交じりの文語体の和装本。全二冊。東京の金港堂刊。

新保磐次については(国新1)『日本読本』(明治十九年)の項に記した。林吾一(一八五一〜一九一〇)は

東京師範学校を卒業後、各地の師範学校で教員、校長を歴任する。教育関係の著訳書が多い。

- 1 第一「十一、珍シキ道行キ。」(A 721)
- 2 第一「十六、狐。」(A 15)
- 3 第一「二十一、事ヲ謀ルニ力ヲ戮スベシ。」(A 181)
- 4 第一「三十一、人ハ自助クベシ。」(A 269)
- 5 第一「三十四、正直ノ徳。」(A 173)

国金1…金港堂編輯所編輯『^{簡易}日本読本』(明治二二年一月二四日)・金港堂編輯所編輯『^{新撰}日本読本』(明治二四年二月九日)

後者は前者と同版の改題本。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全上下二冊。東京の金港堂刊。

- 1 下「宝。」10才(A 42)

国金2…金港堂編輯所編輯『^{新撰}高等日本読本』(明治二四年九月五日)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。上編四冊、中編・下編各二冊で全八冊。東京の金港堂刊。

- 1 上編第一「烏ト狐。」17才(A 124)
- 2 上編第一「珍シキ道行。」28才(A 721)(絵)
- 3 上編第一「獅子。」43才(A 563)(絵)
- 4 上編第三「身体ノ争ヒ。」17ウ(A 130)

国育1…育英舎編述『新撰小学読本』(明治二五年三月)

一九日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。「発行者」は東京の阪上平七。

1 巻四「第七課 アリト、キリギリスノ話」(A 112・373)

2 巻四「第十課 よくふかき犬の話。一」「第十一課

ヨクフカキ犬ノ話。二」(A 133)

2 課で一話完結。第十課は漢字平仮名交じり、第十一課は漢字片仮名交じり。

3 巻四「第十四課 子供と、蛙。」(O 5)

4 巻五「第四課 蟻の恩返し。」(A 235)

5 巻五「第十四課 鶴と狐の話。」(A 426)

6 巻五「第十八課 ランプの話。」(A 349)

7 巻六「第三課 烏のたび。」(A 390)

8 巻六「第七課 鼠ノ相談。」(A 613)

9 巻六「第十一課 小鳥と鼠の戦争。」(A 566)

国金3…金港堂書籍編輯所編輯『^新尋常日本読本』(明治二五年四月一二日)

漢字片仮名ときに平仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍(「金港堂」の会社名変更)刊。

1 巻四「うさぎ。」19ウ(A 226)

2 巻八「宝。」28ウ(A 42)

国山1…山県悌三郎著『小学国文読本 尋常小学校用』

巻之二(明治二五年六月二日)・巻之四(明治二五年七月一日)・巻之六・七(明治二五年九月五日)

漢字平仮名交じりの和装本。多くは文語体だが、巻二は口語体。全八巻八冊。東京の文学社刊。

山県悌三郎(一八五九〜一九四〇)は東京師範学校卒業後教員を務めるが、雑誌「少年園」を明治二一年に創刊するなど、在野で活躍する。

1 巻二「第十二課」(A 133)(絵)

2 巻四「第二十二課 農夫の話」(A 42)(絵)

3 巻六「第六課 骨折りぞん」(A 721)(絵)

4 巻七「第十三課 妄想」(O 1)

国山2…山県悌三郎著『小学国文読本 尋常小学校用 片仮名交』(明治二五年九月五日)

巻六、七は、課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。1、3は(国山1)『小学国文読本 尋常小学校用』(明治二五年)の2、4とほとんど同文であり、絵も同じ。

山県悌三郎については(国山1)の項に記した。

1 巻六「第五課 農夫の話」(A 42)(絵)

2 巻六「第七課 骨折りぞん」(A 721)(絵)

3 巻七「第十二課 妄想」(O 1)

国学海1…学海指針社編輯『帝国読本』(明治二五年九月二〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和

装本。全八巻八冊。東京の集英堂刊。学海指針社、集英堂共に小林八郎の創設である。

- 1巻之三「第十三課 かへるのはなし」(A 376) (絵)
- 2巻之三「第二十八課 からすのちる」(A 390) (絵)
- 3巻之五「第十六課 狐と鶴」(A 426) (絵)
- 4巻之八「第九課 蟻の話」(A 112・373) (絵)

国渡・渡辺政吉著『単級尋常日本読本』(明治二五年一月六日)・渡辺政吉著『単級修正尋常日本読本』(明治三四年十一月二〇日)

三宅米吉閱。後者は前者の改訂版で、ほぼ同文だが「三宅米吉閱」が消える。三学級以下の尋常小学校向けに作られた読本教科書。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。巻五は四冊からなり全五巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

渡辺政吉は小学校用の各種教科書を著している。

- 1巻五上「〇鳥」1オ (A 390)
- 2巻五天「〇鳥ノハナシ」1オ (A 194)
- 3巻五地「〇農夫ノ遺言」2オ (A 42)

国日・日下部三之介編『新撰小学読本』(明治二六年一月九日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体(巻三までには口語体も)の和装本。全八巻八冊。東京の田沼書店刊。

日下部三之介(一八五六―一九二五)は二本松藩士の家に生まれ、文部省を退官後東京教育社を創設し、国家主義教育の論陣を張る。

- 1巻之四「雞ノケアヒ」12ウ (A 281) (絵)

国学習・学習院編纂『学習院初学教本』三之巻(明治二七年三月一日)

学習院で使用するために学習院の教員たちによって編纂された教科書。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。口語体も文語体もある。全一二巻二二冊。学習院刊。当時の学習院は宮内省管轄の官立学校。

- 1三之巻「第九課 いつはりの いましめ」(A 210)
- 2三之巻「第十六課 ゆだん は 大てきなり。」(A 226)

国興・興風学館編『尋常小皇民読本』(明治二七年七月九日)

巻之四以降は漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。発行者は東京の神戸直吉(神戸書店)。

- 1巻之四「第六課 愚なる女」第七課 愚なる女 つゞき」(A 58) (絵)
- 2巻之四「第十課 慾深き犬」(A 133) (絵)
- 3巻之四「第十五課 鳥と獣の話」第十六課 鳥と獣の話 つゞき」(A 566) (絵)

4 卷之六「第九課 旅客と熊」(A 65) (絵)
5 卷之六「第十三課 兎と亀」(A 226) (絵)
6 卷之六「第十五課 獅と鼠の話」(第十六課 獅と鼠の話 続き) (A 150) (絵)
7 卷之八「第八課 羊の山路」(21)

国金 4…金港堂書籍編輯所編輯『尋常新体読本』(明治二七年八月一五日)・金港堂書籍編輯所編輯『訂新体読本尋常小学校用』(明治二七年八月一五日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。後者は前者の訂正改題本。教材に小異がある。また同一教材でも文章に小異がある。
1 卷三「第八課」(A 226) (絵)
前者では無題だが、後者では「第八課 かめとうさぎ」とタイトルがある。

国金 5…金港堂書籍編輯所編輯『高等新体読本』(明治二七年九月二九日)

漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

1 卷一「第十二課 珍シキ道行」(A 721)
2 卷四「第十一課 身体の論争」(A 1307)

国金 6…金港堂書籍編輯所編輯『訂新体読本 高等小学

用』(明治二七年一月三日)

〈国金 5〉『高等新体読本』(明治二七年)の改訂版。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

1 卷四「第十二課 身体の論争」(A 130)
〈国金 5〉の 2 と同文。

国浅…浅尾重敏編『小学尋常読本』(明治二七年一月二日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。「発行者」は富山市の中田清兵衛・小林恒太郎・大橋甚悟である。扉に「三書堂」、柱記に「三書堂蔵版」とあるが、中田以下三者の共同出版の謂であらう。絵は尾竹越堂、尾竹竹坡の兄弟。

浅尾重敏(一八六三?)は富山県出身で、当時は神戸在住であるが、明治一五年から二五年まで富山県師範学校の教員を務めている。浅尾及び本書については府川(二〇一四)七六三ページ以下が詳しい。

1 卷四「第十七課 鳩ト蟻トノハナシ」(A 235) (絵)
落款がなく画工はどちらか不明。

国西沢 1…西沢之助編『尋常小学読本』(明治二八年二月一八日)

東久世通禧関。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の国光社刊。巻

之一第三十六課は絵付きで「うさぎは、はやくはしる。かめはおそくあゆむ。」という動物の性質を事実として述べただけだが、イソップの影響を見ることができるよう。なお西沢之助編『尋常小学読本』（明治三十一年版）とは異なる。こちらにはイソップ寓話はない。

西沢之助（一八四八～一九二九）は国光社を創設し、多くの教科書を出版する。

1 卷之四「第九課 ヨクフカキ農夫」（A 87）（絵）

国育2…育英舎編纂『^{尋常}小学明治読本』（明治二八年九月一日）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本文語体も口語体もある。全八巻八冊。「発行兼印刷者」は阪上半七。柱記にも「阪上蔵梓」とある。

1 卷二「第十九課」（A 133）（絵）

2 卷四「第十五課 鼠の相談」（A 390）（絵）

3 卷五「第十五課 烏のちゑ」（A 390）（絵）

国金7…金港堂書籍編輯所編輯『小学読本 高等科用』（明治二九年一二月二〇日）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

1 卷一「第十八課 烏ト狐」（A 124）

国大矢…大矢透『大日本読本 尋常小学科』（明治二九

年一二月二三日）

上田万年・尺秀三郎関。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。口語体も文語体もある。全八巻八冊。東京の大日本図書刊。本書については府川（二〇一四）七四七ページ以下が詳しい。

大矢透（一八五一～一九二八）は国語学者として名高い。明治一九年から数年間は文部省編輯局で伊沢修二の下にいて教科書編集に携わっている。

1 卷二「第十六」（A 133）（絵）

2 卷六「第八 骨をしみせし馬」（A 180）（絵）

国文部2…文部省『^{北海}道尋常小学読本』（明治三〇年三月九日）

文部省は内国植民地とされた北海道の児童向けには本書を作成し、使用させた。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。文部省刊。本書については府川（二〇一四）七八三ページ以下が詳しい。

1 卷三「第十二課 よく ふかき 犬。」（A 133）（絵）

国学海2…学海指針社編『新編帝国読本』（明治三〇年一〇月一日）・『^{修正}新編帝国読本』（明治三四年五月）

後者は前者の修正版。後述の（国学海3）と紛らわしいが、これは尋常科用教科書である。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体も

ある。全八巻八冊。東京の集英堂刊。

1巻二「とくしよ」2ウ（A 226）

後者では「おはなし」

国文学1…文学社編輯所編纂『国民新読本 尋常小学校用』（明治三〇年十一月一四日）・文学社編輯所編纂『小学国語新読本 尋常科用』（明治三三年一〇月一四日）

後者は前者の改訂版。表記を手直ししてあるが、ほとんど同文。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の文学社刊。

1巻二「ウサギ ト カメ」20オ（A 226）（絵）

2巻七「第五 骨折りぞん」（A 721）（絵）

国神…神戸直吉著『尋常小学新撰読本』（明治三〇年一二月三〇日）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の神戸書店刊。住所が同じなので、神戸書店は神戸直吉の創始になる出版社であろう。〈国興〉『尋常小学教科用皇民読本』（明治二七年）の出版社でもある。

神戸には英語本や教育書がある。姓はカンベ。

1巻五「第七課 ちゑと勉強」（A 390）

国学海3…学海指針社『新編帝国読本 高等科』（明治

三〇年一二月三日）・学海指針社『修正新編帝国読本 高等科』（明治三四年三月）

後者は前者の修正版。全八巻八冊。イソップのある巻二は漢字平仮名交じり文語体の和装本。東京の集英堂刊。
1巻二「第四 蝙蝠」（A 566）

国文部3…文部省『沖縄県用尋常小学読本』巻三（明治三一年三月一〇日）・巻五（明治三二年一月一三日）・巻六（明治三二年二月一六日）

文部省は内国植民地とされた沖縄県の児童向けには本書を作成し、使用させた。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。文部省刊。本書については府川（二〇一四）七八三ページ以下が詳しい。

1巻三「第十四課 ヨク ノ フカイ 犬。」（A 133）（絵）

2巻五「第六課 烏ト狐。」（A 124）（絵）

3巻六「第十五課 亀と兎とのかけくらべ。」（A 226）（絵）

国西沢2…西沢之助編『尋常小学国語読本』（明治三二年一〇月二二日）

副島種臣・東久世通禧閱。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全八冊。東京の国光社刊。

西沢之助については〈国西沢1〉『尋常小学国語読本』(明治二十八年)の項に記した。

1 四「第二十二課 三郎」(A 226)(絵二図)

直接寓話を示すのではなく、本文中に「先生から、兎と亀とのかけくりに、兎が、ゆだんをしてまけたといふ話をきよ」とある。絵はこの寓話に関わる二図。

国育3…育英舎編纂『^新尋常小学読本』(明治三十二年一月二十八日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の育英舎刊。

1 巻二「第三十課 かめと、うさぎ」(A 226)

2 巻三「第十四課 ヨクフカキ犬」(A 133)

3 巻四「第八課 烏のちゑ」(A 390)

4 巻四「第九課 カウモリノ二心」(A 566)

5 巻四「第十一課 鼠のさうざん」(A 613)

本文中のタイトルは正しく「鼠のさうざん」とある。

6 巻五「第二十課 二人ノ旅人」(A 65)

7 巻八「第十二課 地下の宝物」(A 42)

国坪1…坪内雄蔵著『<sup>尋常小学
生徒用書</sup>読本』(明治三十二年一月二十五日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本文。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の富山房刊。坪内雄蔵(逍遙)(一八五九〜一九三五)の関わつ

た教科書については府川(二〇一四)八二一ページ以下が詳しい。

1 巻一「ハト アリ」2 オ(A 235)(絵)

2 巻一「ヲノ キコリ」3 ウ(A 173)(絵)

3 巻一「ウサギ ガ ヤスム。カメ ガ イソグ。」9 ウ(A 226)(絵)

4 巻一「いぬ が はし を わたる。かげ が みづ に うつる。」24 ウ(A 133)(絵)

5 巻三「八、ねずみのさうざん」(A 613)(絵)

6 巻三「廿四、あほふ鳥」(A 472)(絵)

本文中のタイトルでは「あほう鳥」

7 巻四「十五、蟻 ト セミ」(A 112・373)(絵)

国普2…普及舎編『<sup>尋常小
学校用</sup>国語読本』巻二・三(明治三三年九月六日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本文だが、ページ付け。文語体も口語体もある。東京の普及舎刊。

1 巻二(無題) 26 ペ(A 112・373)

2 巻二(無題) 32 ペ・37 ペ(A 226)

37 ページは32 ページの話に関する設問。

3 巻三「第二 日と風との力くらべ」(A 46)

国坪2…坪内雄蔵著『<sup>尋常小
学校用</sup>国語読本』訂正再版(明治三三年九月一七日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。ただし巻一は片仮名のみ。全八巻八冊、東京の富山房刊。三版は内容、構成が異なるので、〈国坪4〉として別に項を立てた。

- 1巻一「ハト。アリ。」2ウ (A 235)
- 2巻一「ウサギ ガ ヤスム。」11オ (A 226)
- 3巻三「6 ねずみのそーだん」 (A 613)
- 4巻三「22 あほー鳥」 (A 472)
- 5巻四「15 蟻トセミ」 (A 112・373)

国学海4…学海指針社編『小学国語読本』(明治三十三年九月二三日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の集英堂刊。

- 1巻五「第十 ひばりのはなし」 (A 325)

国金8…金港堂書籍『常国語読本』(明治三十三年九月)

原本は未見。教師用指導書『常国語読本教授書』(金港堂書籍、明治三五年一月二五日)の記述による。全八巻八冊。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。イソップ寓話から採った以下の三話は口語体。

- 1巻二「タロー ノ ハナシ」8ウ「(同) つゞき」9ウ (A 226)
- 2巻四「第四課 アリトキリドース」(A 112・373)

- 3巻五「第四課 カウモリ」(A 566)

国学海5…学海指針社編『小学国語読本 高等科』(明治三十三年一〇月一日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の集英堂刊。

- 1巻一「第十四 蝙蝠」(A 566)
- 2巻二「第十四 鼠の相談」(A 613) (絵)

国坪3…坪内雄蔵著『国語読本高等小
学校用』(明治三十三年一〇月二日)

課により平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の富山房刊。版により構成が異なるが、イソップ寓話に関しては変わりない。

- 1巻三「第五課 胃の腑の説諭」(A 130)

国学海6…学海指針社編『学小女子国語読本 高等科』(明治三十三年一〇月一七日)

漢字平仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の集英堂刊。以下の二話は〈国学海5〉『小学国語読本 高等科』(明治三十三年)とほぼ同文。絵も同じ。

- 1巻一「第十四 蝙蝠」(A 566)
- 2巻二「第十六 鼠の相談」(A 613) (絵)

国右…右文館編輯所編『尋常小学国語読本』(明治三十一年一月二一日)・右文館編輯所編『実驗国語読本 尋常小学校用』(明治三十四年八月一日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の右文館刊。後者は前者の改訂版。

- 1 巻二「第十九課」(A 613) (絵)
- 2 巻三「第二十三課 およこのかへる」(A 376) (絵)
- 3 巻四「第十一課 ネコトキツネ」(A 605) (絵)
- 4 巻四「第二十二課 風と日」(A 46) (絵)
- 5 巻七「第十二課 獅子と蚊との戦」(A 255) (絵)
- 6 巻八「第十七課 鹿の水かがみ」(A 74) (絵)

国金9…金港堂書籍編輯『訂修小学読本 高等科』(明治三十一年一月二八日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

- 1 巻一「第十七課 烏ト狐」(A 124) (絵)
- 2 巻四「第十八課 身体ノ論争」(A 130) (絵)

国育4…育英舎編輯所編纂『尋常小学国語教本』(明治三十一年二月二七日)

原本は未見。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりと思われる。坂上半七刊。以下府川(二〇一四)八一七ページに拠る。

- 1 巻二「30 カメト、ウサギ」(A 226) (絵)
- 2 巻三「14 ヨクフカキ犬」(A 133) (絵)
- 3 巻四「9 カウモリノ二心」(A 566) (絵)
- 4 巻四「11 ねずみのそーだん」(A 613) (絵)
- 5 巻五「20 二人ノ旅人」(A 65) (絵)

国育5…育英舎編輯所編纂『尋常小学国語教本』(明治三十四年六月一〇日)

〈国育4〉と同じ書名であるが、構成が異なる。課により平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の育英舎刊。

- 1 巻一「無題」19ウ(A 226) (絵)
- 本文は「カメ ガ イソグ。ウサギ ガ ヒルネ ス ル。」とあるのみ。
- 2 巻四「第十六課 鼠ノソーダン」(A 613) (絵)
- 3 巻五「第十二課 カウモリノ二心」(A 566) (絵)
- 4 巻八「第十一課 地下の宝物」(A 42) (絵)

国樋1…樋口勘次郎・野田滝三郎合著『尋常国語教科書』(明治三十四年六月一三日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。巻一は甲種と乙種とがあり全八巻九冊。東京の金港堂書籍刊。

樋口勘次郎、野田滝三郎については〈修樋〉『修身教科書入門』(明治三十四年)の項に記した。

1 甲種卷一「ありはと」 18ウ (A 235) (絵)

水面上に浮かぶアリ、木の葉と樹上のハトの絵に添えて「アリガオヨグ／ハトガキノハヲ／オトス」の文があるだけだが、本書の教師用指導書である『常国語教科書教員用 上篇』(金港堂書籍、明治三四年七月二日)に以下の記述がある。

「二匹の蟻池にはまり溺れんとしつゝくるしみ居たり。一匹の鴿、樹上にあり、之を見て憐れみの心生じ、葉を落す。蟻、之によりて死を免るゝを得たり。蟻之を徳とす。／一人の獵師、鴿を打たんとねらふ、蟻即ち不意に其の足にくひつき、鴿をして飛び去らしめたり。」

2 卷三「十 オヤ子ノカヘル」(A 376) (絵)

3 卷四「十六 ありときりぎりす」(A 112・373) (絵)

4 卷五「第十三 かめとうさぎ」第十四 かめとうさぎのうた」(A 226) (絵)

5 卷五「第二十二 二人ノタビト」(A 65) (絵)

国樋2…樋口勘次郎・野田滝三郎著『等国語教科書』(明治三四年六月一三日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

樋口勘次郎、野田滝三郎については〈修樋〉『常修身

教科書入門』(明治三四年)の項に記した。

1 卷二「第十課 鳥と狐」(A 124)

国育6…育英舎編輯所編纂『高等国語教本 女子用』(明治三四年六月二〇日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の育英舎刊。

1 卷二「第五 胃の腑の働(口語体)」(A 130)

国小山1…小山左文二・武島又次郎合著『新国語読本 常用』(明治三四年六月二九日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。ただしページ付け。巻一は甲種、乙種とあり全八巻九冊。東京の普及舎刊。

小山左文二は実用的な教育書を多数著している。武島又次郎(羽衣)(一八七二—一九六七)は、滝廉太郎作曲の「花」(明治三十三年)の作詞者として当時既に名が知られていたと思われる。

1 卷二(無題) 29ペ (A 226) (絵)

2 卷二(無題) 40ペ (A 133) (絵)

3 卷二(無題) 46ペ (A 133) (絵)

国文学2…文学社編輯所編纂『等日本国語読本』(明治三四年七月六日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。

- 1 卷一「第三 志の定まらぬ人」(A 721)
2 卷八「第二十 肢体と胃腑との喩言」(A 130)

国文学3…文学社編輯所編輯『尋常小日本国語読本』(明治三四年七月一二日)

イソップのある巻一は片仮名口語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。

- 1 巻一「ウサギガネムル。カメガイソグ。」20オ (A 226)
(絵)

国坪4…坪内雄蔵著『国語読本尋常小』訂正三版(明治三四年七月二八日)

〈国坪2〉『国語読本尋常小』(明治三三年)の改訂版で、内容、構成に若干の相違がある。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。東京の富山房刊。全八巻八冊。

- 1 巻一「ハト。アリ。」1ウ (A 235)
2 巻一「ウサギ ガ ヤスム。」10ウ (A 226)
3 巻一「イヌ ガ ハシ ヲ ワタル。」13オ (A 133)
4 巻三「6 ねずみのそーだん」(A 613)
5 巻三「21 あほーがらす」(A 472)
6 巻四「15 アリトセミ」(A 112・373)

国坪5…坪内雄蔵著『国語読本高等科』(明治三四年七月二九日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の富山房刊。扉には「文学博士坪内雄蔵著」とあるが、刊記には坪内の名は校閲者としてあり、編纂者は富山房編輯部となっている。

- 1 巻三「第五課 胃の腑の説諭」(A 130)

国西沢3…西沢之助編『尋常小国語読本』(明治三四年八月五日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。ただしページ付け。巻一、二はそれぞれ甲号、乙号とあり、全八巻一〇冊。東京の国光社刊。なお西沢之助が同社から出した同名の〈国西沢2〉(明治三二年)は別内容の本である。

- 西については〈国西沢1〉『尋常小学読本』(明治二八年)の項に記した。
1 甲号二「ダイ十一」(A 133) (絵)
2 甲号二「ダイ十二」(A 124) (絵)
3 甲号二「ダイ十三」(A 226) (絵)
4 四「第二十二 鳥のきょーどー」(A 390) (絵)

国小山2…小山左文二・加納友市合著『高等国語読本 児童用』(明治三四年九月一日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。甲篇、乙篇各四巻四冊、全八冊。

東京の集英堂刊。

小山左文二については〈国小山1〉『新編国語読本尋常小学校児童用』（明治三四年）の項に記した。加納友市（一八六四～一九二六）は各地の師範学校で教壇に立ち、教育学、教授法に関する著書を持つ。

1 甲篇卷一「第二十課 狐と鳥」（A 124）
七五調の韻文。

2 乙篇卷一「第十七課 獅子恩ヲ知ル（一）」
「第十八課 獅子恩ヲ知ル（二）」（A 563 a）

国大日…大日本図書編輯『日本国語読本 尋常科』（明治三四年九月二二日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。巻一は二冊あり、全八巻九冊。東京の大日本図書刊。

1 巻八「九、協同」（A 130）

国小山3…小山左文二・加納友市合著『尋常国語読本児童用』（明治三四年九月二三日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。巻五・六にはそれぞれ甲乙二篇二冊あり、全六巻八冊。東京の集英堂刊。

小山左文二については〈国小山1〉『新編国語読本尋常小学校児童用』（明治三四年）、加納友市については〈国小山2〉『単級国語読本 児童用』（明治三四年）の項にそれぞれ記し

た。

1 巻一（無題） 14オ（A 226）（絵）

本文は「カメ ヨ ヤスムナ。ヤスムナ カメ ヨ。」とあるだけだが、絵には眠るウサギと進むカメが描かれている。

2 巻二「八 カメ ト ウサギ」（A 226）（絵）

3 巻二「十二 よくのふかい いぬ」（A 133）（絵）

4 巻二「十三 あり と きりぎりす」（A 112・373）（絵）

国高知…高知県教育会編纂『尋常小国語読本学校用』（明治三四年十一月三日）

坪内雄蔵校閲。〈国坪4〉『尋常小国語読本学校用』訂正三版（明治三四年）とほとんど変わらない。丁付けが多少変わる。

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。東京の富山房刊。全八巻八冊。

1 巻一「ハト。アリ。」 1ウ（A 235）

2 巻一「ウサギ ガ ヤスム。」 11ウ（A 226）

3 巻一「イヌ ガ ハシ ヲ ワタル。」 14オ（A 133）

4 巻三「6 ねずみのそーだん」（A 613）

5 巻三「21 あほーがらす」（A 472）

6 巻四「15 アリトセミ」（A 112・373）

国小山4…小山左文二・武島又次郎合著『新編国語読本高等小』（明治三五年二月一五日）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。

文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の普及舎刊。

小山左文二、武島又次郎については〈国小山1〉『新編国語読本児童用』(明治三四年)の項に記した。

1巻一「第二十二課 狐と鳥」(A 124) (絵)

七五調の口語体韻文。

2巻二「第十課 獅子ノ恩ガヘシ(一)」

「第十一課 獅子ノ恩ガヘシ(二)」(A 563 a) (絵)

国光・国光社編輯所編纂『国民読本尋常小』(明治三五年八月三十一日)・国光社編輯所編纂『小学読本尋常小』(明治三五年八月三十一日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。ただしページ付け。全八巻八冊。東京の国光社刊。両書の内容はほとんど変わらない。

1巻一(無題) 14ペ (A 226) (絵)

2巻一(無題) 54ペ (A 235) (絵)

本文は「ありが、みづに、くるしんで、ゐます。あれ、あれ、きのはが、ひらひらおちる。」とあるだけだが、絵には木に止まる小鳥が描かれていて、イソップの「アリとハト」に基づいている。

3巻四「第二課 鳥」(A 390) (絵)

国文学4・文学社編輯所編纂『単級国語教科書』(明治三五年九月一四日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の

和装本。全八巻八冊。東京の普及舎刊。

1巻一(無題) 22ウ (A 226) (絵)

2巻二(無題) 46ペ (A 180) (絵)

4二(無題) 52ペ (A 7) (絵)

5三「ダイ九 カシノキトタケ」(A 70)

和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。

1巻一(無題) 22ウ (A 226) (絵)

国文学5・文学社編輯所編纂『尋常国語教科書』(明治三五年十一月一七日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。巻一は〈国文学4〉『単級国語教科書』(明治三五年)と同版。

1巻一(無題) 22ウ (A 226) (絵)

2巻二(無題) 46ペ (A 180) (絵)

4二(無題) 52ペ (A 7) (絵)

5三「ダイ九 カシノキトタケ」(A 70)

6 五「だい六 ひばりと人。」(A 325) (絵)
7 五「ダイ十四 カウモリ。」(A 566) (絵)

国^国二 2…文部省著作『高等小学読本』(第一期国定)
二(明治三十七年二月六日)・四(明治三十七年二月二八日)
・五(明治三十六年一月三日)

高等小学校用の第一期の国定教科書。漢字平仮名まれに片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全八冊。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1 二「第十九課 二人の旅人と熊。」(A 65) (絵)
2 四「第十九課 老人と驢馬との話。」(A 721) (絵)
3 五「第三課 胃の説諭。」(A 130)

国^国二 1…文部省著作『尋常小学読本』(第二期国定)
卷一(明治四十二年九月一〇日)・卷二(明治四十二年五月一〇日)・卷五(明治四十二年一〇月)・卷八(大正二年三月一〇日)

尋常小学校用の第二期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二卷一二冊。起草委員は芳賀矢一、乙竹岩造、三土忠造、起草委員補助は高野辰之。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1 卷一(無題) 12 ぺ (A 226) (絵)

カメとウサギが向かい合っている絵のみ。

2 卷一「アサイ ハチ フカイ ツボ ホソナガイ ク

チバシ」 18 ぺ (A 426) (絵)
ツルとキツネの絵。

3 卷二「七 イヌ ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)
4 卷五「第十八 カウモリ」(A 566) (絵)
5 卷五「第二十三 鹿ノ水カミ」(A 74) (絵)
6 卷八「第二十 胃と身体」(A 130)

国^国二 2…文部省著作『^{秋季}尋常小学読本』(第二期国定)
卷一(明治四十二年九月一日)・卷二(大正元年一〇月二五日)

第二期の国定読本教科書には、僻地などの秋季始業校用に、(国^国二 1)『尋常小学読本』の教材を再編成した本書がある。したがって採用された教材の内容は(国^国二 1)に一致する。全四卷四冊。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1 卷一(無題) 13 ぺ (A 226) (絵)
2 卷一「アサイ ハチ フカイ ツボ ホソナガイ クチバシ」 18 ぺ (A 426) (絵)
3 卷二「七 イヌ ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)

国^国二 3…文部省著作『第二種尋常小学読本』(第二期国定)第一学年用上(大正二年二月二五日)・同下(大正二年二月二五日)・第二学年用下(昭和六年二月二三日)

第二期の国定読本教科書には、複式学級用に、(国^国二 1)『尋常小学読本』の教材を再編成した本書がある。

全一二冊。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。なお、「第二学年用下」は大正三年には発行されているはずであるが、昭和期になってからの原本しか見ることができなかった。

- 1 第一学年用上「カメ ウサギ」(13ペ) (A 226) (絵)
- 2 第一学年用下「七 イヌ ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)
- 3 第二学年用下「十三 土 の 中 の たからもの」(A 42)

国三1…文部省著作『尋常小学国語読本』(第三期国定) 卷二(大正六年六月二〇日)・卷三(大正六年一月五日)・卷四(大正八年一月二八日)・卷五(大正八年一月二五日)

第三期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二巻一二冊。国定第三期には二種類の読本教科書が発行され、地域によってどちらかが使用された。一つは新たな方針の下に編集された本書であり、他は第二期の修正版である(国三2)『尋常小学読本』である。本書の編集を主に担当したのは八波則吉、高野辰之。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

- 1 巻二「六 犬 ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)
- 2 巻二「十二 ネズミ ノ チェ」(A 613) (絵)
- 3 巻三「二十三 カウモリ」(A 566) (絵)
- 4 巻四「十 日 と 風」(A 46)
- 5 巻五「二十五 熊のさゝやき」(A 65) (絵)

国三2…文部省著作『尋常小学読本』(第三期国定) 卷一(大正七年二月五日)・卷二(大正六年一月三日)・卷三(大正六年一月二〇日)・卷五(大正九年一月一日)

第三期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二巻一二冊。国定第三期には二種類の読本教科書が発行され、地域によってどちらかが使用された。一つは第二期の修正版である本書であり、他は新たな方針の下に編集された(国三1)『尋常小学国語読本』である。本書は芳賀矢一、三土忠造などが修正の任に当たったという。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

- 1 巻一「ウサギ ト カメ ウサギ ノ ヒルネ」13ペ (A 226) (絵)
- 2 巻一「アサイ ハチ フカイ ツボ ホソナガイ ク チバシ」18ペ (A 426) (絵)
- 3 巻二「七 ヨク ノ フカイ 犬」(A 133) (絵)
- 4 巻三「二十七 馬ヌスピト」(36)
- 5 巻五「第二十三 かうもり」(A 566)

国四…文部省著作『小学国語読本』(第四期国定) 卷一(昭和七年一月二五日)・卷二(昭和八年七月一日)・卷三(昭和九年二月一四日)

第四期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二巻一二冊。

日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

- 1 巻一 (無題) 48 ぺ (A 226) (絵)
- 2 巻一 (無題) 50 ぺ (A 150) (絵)
- 3 巻二「十 ネズミノ ヨメイリ」(A 619) (絵)
- 4 巻三「十 蛙」(A 376) (絵)
- 5 巻三「十七 ねずみの ちゑ」(A 613) (絵)
- 6 巻三「二十 金のをの」(A 173) (絵)

参考

三原時信・谷保子訳『英語国語読本』(昭和一五年七月)

英語書名は *Japanese Reader*。第四期国定教科書『小学国語読本』の巻三までの対訳本。見開きの左ページに日本語本文をローマ字で、右ページにその英語対訳文を示す。絵はない。東京の、日本のローマ字社刊。

- 1 Book1 p.12
 - 2 Book1 p.12
 - 3 Book2 10.THE MOUSES WEDDING
 - 4 Book3 10.THE STORY OF A FROG
 - 5 Book3 17.THE WISDOM OF A MOUSE
 - 6 Book3 20.THE GOLDEN AX
- 三原時信・谷保子訳『対訳日本小学国語読本』(昭和一六年)

英語書名は *Parallel Translation of the Japanese Primary School Reader*。アメリカの日系二世の日本語教育用として作成された、第四期国定教科書『小学国語読本』の巻六までの対訳本。見開きの左ページに日本語本文をローマ字で、右ページにその英語対訳文を、左右の下欄に日

日本語本文を漢字仮名交じりで示す。英訳は『英語国語読本』を多少手直ししている。『小学国語読本』の絵も載せるが、更に独自の絵も加える。東京の、日本のローマ字社刊。

- 1 Book1 p.21
- 2 Book1 p.23
- 3 Book2 10.THE MOUSES WEDDING
- 4 Book3 10.THE STORY OF A FROG
- 5 Book3 17.THE WISDOM OF A MOUSE
- 6 Book3 20.THE GOLDEN AX

国国五1…文部省著作『ヨミカタ／よみかた』(第五期国定)二(昭和一六年八月一日)、三(昭和一六年三月七日)

第五期の国定教科書。国民学校初等科第一学年用二冊は「ヨミカタ」、第二学年用二冊は「よみかた」。前者は僅かの漢字と片仮名、後者は漢字平仮名交じり口語体の洋装本。全四冊。〈国国五2〉『コトバノオケイコ／ことばのおけいこ』(昭和一六年)と連動している。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

- 1 二「三 ウサギト カメ」(A 226) (絵)
- 2 二「十七 ネズミノ ヨメイリ」(A 619) (絵)
- 3 三「八 蛙」(A 376) (絵)
- 4 三「十二 ねずみの ちゑ」(A 613) (絵)

国国五2…文部省著作『コトバノオケイコ／ことばのお

けいこ』(第五期国定)一(昭和一六年三月一七日)・二(昭和一六年八月一六日)・三(昭和一六年三月二六日)

第五期の国定教科書。国民学校初等科第一学年用二冊は「コトバノオケイコ」、第二学年用二冊は「ことばのおけいこ」。前者は僅かの漢字と片仮名、後者は漢字平仮名交じり口語体の洋装本。全四冊。(国国五一)『ヨミカタ／よみかた』(昭和一六年)と連動して、文字や表記を学ぶ教科書。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1一(無題) 17ペ(A 426)(絵)

狐のそばで鶴が皿の汁を飲もうとする絵。

2二「三 ウサギトカメ」(A 226)

3二「十七 ネズミノ ヨメイリ」(A 619)

4三「八 蛙」(A 376)

5三「十二 ねずみの ちる」(A 613)

国国六・文部省著作『こくご／国語』(第六期国定)二(第一学年後期用)(昭和二二年一〇月一〇日)・第三学年下(昭和二二年一月二五日)・第五学年下(昭和二三年一月二五日)

第六期の国定教科書。戦後最初の国語教科書である。石森延男を中心に多くの学者、文学者が編集に加わる。第一、二学年用の四冊までが「こくご」、第三学年用以降が「国語」。全一五冊。漢字平仮名交じり口語体の洋装本。韻文には文語体もある。日本書籍、東京書籍、大

阪書籍の三社から刊行された。

1二「五 おはなし(二)」(21)(絵)

2第三学年下「二 イソップものがたり ありとはと」

(A 235)(絵)

3第三学年下「二 イソップものがたり ありときりぎりす」(A 112・373)(絵)

4第五学年下「十一 ある写真帳 イソップ物語」109
ペ(写真)

ESOPO NO FABVLAS の紹介

3 中等学校用教科書

イソップ寓話は一般には子ども向けの童話と見なされていた。それ故中等教育機関である旧制中学校、高等学校の教科書に載るのは数少ないが、いくつか例を見出すことができる。以下に示した教科書はいずれも漢字平仮名交じりの洋装本である。中等段階なので文語体が多い。

中大・大町芳衛・上田敏合編『新体中学国文教程』(明治三二年四月四日)

東京の大日本図書発行の中学校国語教科書。全一〇巻一〇冊。これにイソップ寓話が二話あり、いずれも仮名草子『伊曾保物語』を底本としている。

大町芳衛(桂月)(一八六九―一九二五)は明治二九年東京帝国大学国文科を卒業し、当時中学校教員であったかと思われる。まだ文学者として名をなしていない時

期である。上田敏（一八七四～一九一六）は明治三〇年東京帝国大学英文科を卒業し、当時は東京高等師範学校教授であったと思われる。上田も大学を卒業したばかりで、学者としても詩人としても高名であったわけではない。なお、上田がイソップ研究上重要な「伊曾保物語」の講演を行うのは一〇年後のことである。

1五の巻「第七 中間と侍と馬をあらそふ事（伊曾保物語）」（36）

文語体。

2六の巻「第五 出家と盗人との事（伊曾保物語）」（08）

文語体。

中武…武島又次郎編『中学帝国読本』（明治三五年二月一日）

東京の金港堂書籍発行の中学校国語教科書。全一〇巻一〇冊。仮名草子『伊曾保物語』から一話採られている。

武島又次郎については〈国小山1〉『新編国語読本 尋常小学校 児童用』（明治三四年）の項に記した。

1巻一「一〇 法師と盗人との話」（08）

文語体。

中上…上田万年編『大正改版中学読本』（大正元年一月五日）

東京の大日本図書発行の中学校国語教科書。全九巻九

冊か。上田万年（一八六七～一九三七）は、当時東京帝国大学教授で、同じ出版社発行とはいえ、〈中大〉『新体中学国文教程』（明治三二年）とは異なりこれは編者として最高権威を起用している。上田は『新訳伊蘇普物語』（鐘美堂、明治四〇年）を五年前に出している。

1巻二「二四 古譚二則 一 力の神」（A291）

末尾に「（伊蘇普物語）」とある。上田の『新訳伊蘇普物語』と比較すると、『新訳』の口語体をほぼ文語体に置き換えた本文といえる。

中金…金沢庄三郎著『高等女学校用国語教科書』（大正四年一〇月二日）

東京の弘道館発行の高等女学校用国語教科書。全八巻八冊。金沢庄三郎（一八七二～一九六七）は、当時『辞林』（三省堂、明治四〇年）の監修者として知られていた。

1巻二「七 伊曾保物語 一、 鳩と蟻との事」（A235）

（絵二図）

絵は「伊曾保像（ヴェラスケス筆）」と万治整版本『伊曾保物語』の絵の二図。口語体。

2巻二「七 伊曾保物語 二、 鶏と下女との事」（A55）

口語体。

中明…明治書院編輯部編集『女子国文選』（昭和二年一〇月二三日）

東京の明治書院発行の高等女学校用国語教科書。全一〇巻一〇冊。イソップ寓話が四話まとめて掲載されている。末尾に「―楠山正雄訳、イソップ物語―」とある。いずれも口語体で、楠山正雄訳『新訳イソップ物語』（富山房、大正五年九月）に拠る。ただし表記は多少変えている。掲載順も楠山本と一致する。挿絵は楠山本の絵の模写といえる。

1 巻一「一七 負惜み 楠山正雄／狐と葡萄」(A 15)

(絵)

2 巻一「一七 負惜み 楠山正雄／狐と河」(A 232)

3 巻一「一七 負惜み 楠山正雄／遊獵家と樵夫」(A 326)

(絵)

4 巻一「一七 負惜み 楠山正雄／鶴と鳥網打」(A 193)

(絵)

中藤・藤村作・島津久基共編『改訂中等新国文』（昭和六年八月三日）

東京の至文堂発行の中学校用国語教科書。全一〇巻一〇冊。藤村作（一八七五―一九五三）は当時東京帝国大学教授。島津久基（一八九一―一九四九）は病氣のため辞職するが、大正一五年まで東京帝国大学助教授であった。権威者を編者に当てたといつてよいだろう。仮名草子「伊曾保物語」から二話を採っている。

1 巻二「一五 伊曾保物語抄 一 竜たつと人との事」(A 640)

a) (絵)

文語体。絵は万治整版本『伊曾保物語』のもの。

2 巻二「一五 伊曾保物語抄 二 鼠ども談合の事」(A 613) (絵)

文語体。絵は万治整版本のではない。

4 外地用教科書

日本の領有するところとなった台湾・朝鮮半島、委任統治領となった南洋群島、更には旧満洲、これらいわゆる外地においても初等教育用の日本語教科書が刊行されている。これにもイソップ寓話がときに見られる。

外地用教科書は、原本以外に以下の文献にある複製も利用した。

・宮脇弘幸監修『南洋諸島国語読本』全八巻（大空社、二〇〇六年一〇月二四日）

・『旧植民地・占領地域用教科書集成』第一～二〇巻（あゆみ出版、一九八五年）

・磯田一雄・槻木瑞生・竹中憲一・金美花編『在満日本人用教科書集成』全八巻（柏書房、二〇〇〇年一月三〇日）

南洋諸島の教科書の概要は多くを以下の論考に拠った。

・宮脇弘幸「解説 南洋教育と『国語読本』」（『南洋諸島国語読本』第一巻所収）

外台1・台湾総督府著作『台湾教科用書国民読本』巻五（明治四一年七月五日）・巻六（同年五月一五日）・巻七（同年

二月二日)

台湾の児童向けの日本語読本教科書。筆者が見たのは明治四一年刊行であるが、明治三四年から使用されたと思われる。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの口語体和装本。助詞「は」を「ワ」と表記するなど発音に近い仮名遣いを採用している。全一二巻二冊。台湾総督府刊。

1巻五「第八課 犬と肉」(A 133) (絵)

2巻六「第十三課 蟻ときりぎりす」(A 112・373) (絵)

3巻七「第八課 蠅と水牛の話」(A 255) (A 74)

「蚊とライオン」(A 255)の前半と「水辺の鹿」(A 74)とを組み合わせたとと思われる。

外台2…台湾総督府著作『^{公学}国民読本』巻三(大正二年二月二八日)・巻四(大正二年六月二八日)・巻七(大正三年二月二八日)

巻三・四は漢字片仮名交じり、巻七は課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。仮名遣いは歴史的仮名遣い。全一二巻一二冊。台湾総督府刊。

1巻三「五 ウサギ ト カメ」(A 226) (絵)

2巻四「第六 犬 ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)

3巻四「第十 カラス ノ チエ」(A 390) (絵)

4巻七「第十課 たとへ話」(二) 二匹の山羊^{やぎ}」(21) (絵)

5巻七「第十課 たとへ話」(二) 鹿の水鏡」(A 74) (絵)

6巻七「第十課 たとへ話」(三) 蟻ときりぎりす」

(A 112・373) (絵)

外台3…台湾総督府著作『蕃人読本』巻三(大正五年二月二九日)

台湾原住の民族である平埔族の児童のための教科書。巻三は片仮名主体の漢字交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを用いる。全四巻四冊。台湾総督府刊。

1巻三「八 カラス ノ チエ」(A 390) (絵)

外南1…臨時南洋群島防備隊司令部著作『^{南洋}群島国語読本』(第一次)(大正六年三月二〇日)

南洋群島には当初は四年制の小学校、大正七年からは三年制の島民学校(後に公学校)が置かれた。これら初等教育において使われた日本語の読本。片仮名口語体の洋装本。「著作兼発行者」は臨時南洋群島防備隊司令部となっているが、事実上の編者は司令部付教育主任の杉田次平。巻二は片仮名分かち書きで、助詞「は」を「ワ」と表記するなど発音に近い仮名遣いを採用している。全二巻二冊。同司令部刊。

1巻二「十三 イヌ ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)

外朝1…朝鮮総督府著作『普通学校修身書』(大正一年一〇月三日)

朝鮮における初等教育機関である「普通学校」の修身教科書。普通学校には朝鮮半島出身者が通い、内地人は

それとは別の「小学校」に在籍する。漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。巻一にはハングルによる対訳も付く。全六巻六冊。朝鮮総督府刊。

1巻一「十七」(A 210) (絵)

狼に追われる子どもの絵のみだが、『教師用』は「第十七 ウソヲ言フナ」とあり、話の本文、そのハングルによる訳文も載せる。

外朝2・朝鮮総督府著作『^{普通}国語読本』(大正一三年一月三十一日)

朝鮮半島出身児童が通う普通学校用の国語(日本語)読本。漢字平仮名交じりの洋装本。口語体が主だが、一部文語体もある。全八巻八冊。朝鮮総督府刊。仮名遣いは歴史的仮名遣いを採用し、南洋群島の教科書のような特別の配慮は見られない。

1巻七「第二十 美しい角」(A 74) (絵)

口語七五調の詩形。

外南2・南洋庁著作『^{南洋}国語読本 本科用』(第二次)(大正一四年二月二日)

第二次の公学校本科用日本語教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを採用している。全三巻三冊。「著作兼発行者」は南洋庁であるが、事実上の編纂者は文部省図書編輯官の芦田恵之助(一八七三～一九五一)。

芦田は芦田教式を唱えて大きな影響力を持った国語教育者。

1巻三「十七 ヤギ」(21)

外南3・南洋庁著作『^{南洋}国語読本 補習科用』(第二次)(昭和二年二月二五日)

三年制の「島民学校」「公学校」の上に、支庁所在地に設置された二年制の補習科用の教科書。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを採用している。全二巻二冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者は芦田恵之助。

芦田については(外南2)『^{南洋}国語読本 本科用』(大正一四年)の項に記した。

1巻一「三十三 胃トカラダ」(A 130)

外満・南滿洲教育会教科書編輯部著作『滿洲補充読本』(昭和六年四月)

満洲在住の日本人児童用の読本。全八巻八冊。同編輯部刊。一の巻は片仮名分かち書き口語体の洋装本。

1一の巻「二十 キコリトヲノ」(A 173)

外南4・南洋庁著作『^{南洋}国語読本 本科用』(第三次)(昭和七年三月二五日)

第三次の公学校本科用日本語教科書。口語体の洋装本。巻二は漢字片仮名交じりとし、巻三以降は平仮名も使わ

れる。巻四までは分かち書き。発音に近い仮名遣いを採用している。全六巻六冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者はマルキヨク公学校校長岩崎俊春。

1巻二「七 犬ノヨクバリ」(A 133)

2巻二「十三 ネズミノチエ」(A 613)

本文中のタイトルでは「チエ」は「チエ」と表記される。

3巻三「二十一 こうもり」(A 566)

4巻四「十八 土の中のたから物」(A 42)

5巻五「二十七 熊のさゝやき」(A 65)

外南5・南洋庁著作『公学校 本科国語読本』(第四次)(昭和二年三月二五日)

第四次の公学校本科用日本語教科書。口語体の洋装本。

巻一、二は片仮名分かち書き。巻三以降平仮名が加わる。巻四以降漢字が加わる。巻四までは分かち書き。発音に近い仮名遣いを採用している。全六巻六冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者は元和歌山県立伊都中学校長梅津隼人(一八八四〜一九六一)。

1巻一(無題) 62 ペ (A 226) (絵)

2巻一(無題) 64 ペ (A 150) (絵)

3巻二「十一 ヨクノフカイイヌ」(A 133) (絵)

4巻二「二十三 ハトトアリ」(A 235) (絵)

5巻三「十九 コウモリ」(A 566) (絵)

6巻四「十二 土の中のたからもの」(A 42)

7巻四「十六 うしとかえる」(A 376) (絵)

8巻五「二十三 金のおの」(A 173) (絵)

9巻六「第二十 ろぼと日かげ」(A 460) (絵)

外南6・南洋庁著作『公学校 補習科国語読本』(第四次)(昭和二年三月二五日)

第四次の公学校補習科用日本語教科書。教材により、漢字片仮名あるいは平仮名交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを採用する。全四巻四冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者は梅津隼人。梅津については(外南5)『公学校
本科国語読本』(昭和十二年)の項に記した。

1巻二「第十二 胃ト体」(A 130)

五 対照表

以下の「国定廃止までの教科書掲載イソップ寓話対照表」は、どのイソップ寓話が、小論で扱った教科書のどの箇所に掲載されているかを示したものである。

【凡例】

1 寓話の配列は B. E. Perry の *Aesopica* の番号に従った。*Aesopica* になくてイソップ寓話と認めた寓話は、以下のように仮のタイトルと番号(括弧内に二桁の全角算用数字で示す)を付した。

(01) 少女と牛乳壺…空想にふけっている娘が牛乳壺を落としてしまう。

(02) アザミと子ども…アザミ(トゲのある草)に傷ついた子に母親が力は力を入れてつかめと諭す。

(03) 欲張る子ども…中の木の実をいっぱい取ろうと壺に手を入れたが手の抜けない子どもに、側の人が半分で我慢すればよいと諭す。

(04) 取り除かれた生け垣…生け垣なんか不要だと取り除いたために、人や動物が勝手に出入りして畑が荒らされる。

(05) 子どもとカエル…石を投げつける子どもたちに対しカエルがやめろと抗議する。

(06) 三人の職人…敵から守る手段として、職人三人がそれぞれ我田引水の主張をする。

(07) ライオンの威を借りるロバ…ライオンの威を借りるロバが結局ライオンに殺される。

(08) 盗人と法師…盗人が法師の教えにより改心する。

(09) イタチとネズミ…体の弱ったイタチがネズミをだまし殺すが年寄りのネズミはだまされない。

(10) 羊飼いを追い出すオオカミ…メスオオカミが子を産むために羊飼いに場所を借りて遂には羊飼いを追い出してしまう。

(11) ロバを相手にしないライオン…ロバがライオンを侮辱するが、最初は怒ったライオンも最後は取るに足らぬ奴と相手にしない。

(12) 熊と蜂…蜂の巣を奪って蜜をなめ尽くした熊が蜂に仕返しされる。

(13) ウサギと猟犬…花園を荒らすウサギを退治しようとして猟犬を使って、かえって猟犬に一層花園を荒らされてしまう。

(14) 仕立て師と芸人…飢饉に際して、仕立てが取り柄だけの仕立て師は仕立てで口を糊することができたが、多芸を誇った芸人は芸を活かすことができなかった。

(15) 植え換えた木…実のなる木を自分の物にしようとして植え換えたために木を枯らしてしまう。

(16) イソップの忠告…罪人を溺れさせて浮くか沈むかでその罪を判断することの不当をイソップが説く。

(17) 太鼓と花瓶…太鼓が音を自慢し、花瓶がそれに反論する。

(18) 石のスープ…貧乏な男が金持ちの家で石を使って到頭スープを作ってしまう。

(19) キツネと鶏…罠にかかったキツネを鶏が農夫に伝え、キツネは捕まってしまう。

(20) ヤマアラシと蛇…蛇の巣を借りたヤマアラシのトゲを嫌った蛇が立ち退きを要求してもヤマアラシは出て行かない。

(21) 二匹のヤギ…橋で出逢った二頭のヤギが互いに譲らず遂には二頭とも川に落ちてしまう。

(22) 火中の栗…猿にそそのかされて猫が火の中から取りだした栗を猿がすべて食べてしまう。

(23) ヒョウタンと松…ヒョウタンが成長の早さを松に自慢すると、松がヒョウタンは霜で簡単に枯れてしまうとたしなめる。

(24) アラビア人を追い出すラクダ…ラクダがアラビア人にテントを借り、遂にはアラビア人を追い出してしまう。

(25) 象とネズミと猫…ネズミが象を大きいだけだと批判し

ているときに猫に食べられてしまう。

(26) 目の不自由な人と足の不自由な人…目の不自由な人と足の不自由な人がお互い助け合って旅行する。

(27) ロバと猿とモグラ…角がないロバと尾のない猿がその不足に愚痴をいうと、目の見えないモグラがそれをたしなめる。

(28) 井戸に落ちたキツネ…井戸に落ちたキツネに助けを求められたオオカミが一向に実行しない。

(29) ライオンとネズミの結婚…メスライオンと結婚したネズミが花嫁に踏みつぶされる。

(30) トビにさらわれるカエルとネズミ…一騎打ちをしているカエルとネズミをトビが一举にさらって行く。

(31) キツネとウサギの願い…キツネが長い脚を、ウサギが知恵を神に願ひ、神にたしなめられる。

(32) 愛の神と死の神…愛の神の矢と死の神の矢とが混じり合ってしまう。

(33) ツバメとツグミ…ツバメとツグミ(ムクドリ)が仲違いして交際を断つ。

(34) 命乞いするタカ…ハトを追ったタカがカラスを捕る網にかかって、農夫に命乞いをするが聞き入れられない。

(35) 自慢する土器…完成前の土器が貴人に提供されると自慢するが、雨で土に戻ってしまう。

(36) 馬の裁判…馬を奪い取った者がイソップの頓智でやりこめられる。

(37) 所用時間を答えるイソップ…村までの所要時間を尋ねられたイソップが、旅人が歩き始めてから答える。

(38) 木々とトネリコ…木々が木こりに提供したトネリコが斧の柄となって木々が倒される。(A 302・303に似るが別とする)

2 *Aesopica* 中の寓話タイトル名は、1と471は中務哲郎訳『イソップ寓話集』(岩波書店、一九九九年三月)に、472と579は岩谷智・西村賀子訳『イソップ風寓話集』(国文社、一九九八年一月)に従った。ただし、漢字表記は極力常用漢字の範囲にとどめるため改めた。他は *Perry's Babrius and Phaedrus* (Harvard University Press, 一九六五)の英文タイトルを和訳した。

3 各教科書はこの小論で付けた略記で示した。ただし、修身教科書、国語教科書は独立して欄を設けたので、略記の最初の「修」「国」を省いた。教科書名に続き括弧内に寓話掲載箇所を示した。掲載箇所は、巻・編など上位分類があれば、それを漢数字で示した。「上巻」「前編」など数字によらない場合は「上」「前」などで示した。次に各教科書内での教材番号などを算用数字で示した。それが無い場合は、丁付またはページを「54」「p16」のように算用数字で示した。

国定廃止までの教科書掲載イソップ寓話対照表

Aesopica番号とタイトル	修身教科書	国語教科書	中等教科書 外地用教科書	
7猫のお医者と猪		国一1(二p52)		7
15キツネとブドウ		三宅(一19)・新2(一16)	中明(一17)	15
22キツネときこり		内3(四43)		22
32人殺し		井上2(三44)		32
42農夫と息子たち		市(三3)・原(五45)・阿(二4)・鈴(五27)・新1(四25才)・高橋1(四上42)・中根1(四9)・島(七6)・金1(下10才)・金3(八28才)・山1(四22)・山2(六6)・渡(五地2才)・青3(八12)・青5(八11)・国ニ3(二下13)	外南4(四18)・外南5(四12)	42
43氷を探すカエル		阿(二48)		43
46北風と太陽	小(五14)	青2(三2)・右(四22)・国三1(四10)		46
53兄弟げんかする農夫と息子	木1(五10)	井上1(四12)		53
55安主人と召し使い	国一(四6)・国ニ(三24)	興(四6・7)	中金(二7-2)	55
58女とメダリ				58
65旅人とクマ	青山(五18)	久(三7)・阿(五16)・塚崎1(一16才)・井上1(四18)・塚苔(四上8)・工(六4)・吉賀(六14)・中原1(五9)・興(六9)・青3(五20)・青4(五20)・樋1(五22)・国一2(二19)・国三1(五25)	外南4(五27)	65
67旅人とおの	育1(二21)	内1(二14)・阿(二65)・内2(二14)		67
69隣国土のカエル	育1(三8)	新1(四30才)・内3(五14)・国一1(三9)		69
70カシとアソ	光(一21)			70
73イルカと猿	能1(二10)	文部1(四23)・右(八17)・国二1(五23)	外台1(七8)・外台2(七10-2)・外朝2(七20)	73
74水辺の鹿	沢(三9)			74
80ハエ		原(五28)		80
87金の卵を生むガチョウ	青山(五18)	西沢1(四9)		87
91じやれつくロバと主人		阿(三51)		91
101コウラルカラスと鳥たち	木(一29)	辻(続14才)・中島(四6・六4)・池(二13)・阿(一58)・内3(五21)・中川(七22)・下(四21)・木(四12・13)・育1(四7)・学海1(八9)・坪1(四15)・普2(二p26)・坪2(四15)・金8(四4)・樋1(四16)・坪4(四15)・小山3(二13)・高知(四15)・文学6(四8)・国六(三下2)	外台1(六13)・外台2(七10-3)	101
112アリとセツコガネ	光(一十5)・吉見(前8)・岸(一p95)・能2(一24)・岡(一p8)・小(七8)・学1(二5)・学2(一23)・金(甲16)・右(二9)・青2(一23)・光(一13)・国四(二11)	内3(五8)・西郷(二16)・東(三25)・三宅(一3)・金2(上-17才)・金7(一18)・文部3(五6)・金9(一17)・樋2(二10)・西沢3(甲二12)・小山2(甲-20)・小山4(一22)		112
124カラスとキツネ		内1(二17)・井上1(五7)・三尾(三上1)・内2(二17)・佐2(二上8)・高橋2(二上10)・岡(一2下2)・樋(下17)・三宅(二10)・井上2(七7)・金2(上三17才)・金5(四11)・金6(四12)・坪3(三5)・金9(四18)・青6(二5)・文学2(八20)・坪5(三5)・木目(八9)・国一2(五3)・国二1(八20)	外南3(一33)・外南6(二12)	124
130胃袋と足		原(四36)・吉静(五10)・鈴(五33)・竹(三下43)・吉賀(四19)・文部1(二19)・西郷(四14)・井上2(二53)・青1(四10-11)・山1(二12)・興(四10)・青2(二19)・大矢(二16)・文部2(三12)・文部3(三14)・青3(三14)・坪1(一24才)・青4(三14)・小山1(二p46)・坪4(一13才)・西沢3(甲二11)・小山3(二12)・高知(一14才)・文学5(二14才)・国一1(二山p42)・国二1(二7)・国ニ2(二7)・国ニ3(一7下)・国三1(二6)・国三2(二2)	外台1(五8)・外台2(四6)・外南1(二13)・外南4(二7)・外南5(二11)	130
133肉を運ぶ犬	佐(五14才)・沢(三9)・能1(四13)・岡(一p27)・森(一11才)・犬(三4)・小(六13)・金(乙7)・右(一8)			133
137蛇と牛	能1(三5)			137

139カモメとド	童1(三3)			139
150イオツとネズミの恩返し	樋(二10)		外南5(一p64)	150
151一箱に狩りをするイオツとロバ	森(一16才)			151
156オオカミとヤギ	木1(六1)			155
157オオカミとヤギ				157
168蓮華香と海				168
173きこりとヘルメス	木1(二13)・能2(二12)・光(二25)		外滿(一20)・外南5(五23)	173
175旅人とラタナス	音1(二30)			175
176旅人とラムシ	木1(八22)・丹(二下27才)			176
179ロバと魔師				179
180壺を運ぶロバ				180
181ロバとラバ				180
186ロバとロバ追ひ	小(四12)			186
188イオツの皮を被ったロバ				188
193魔師とヒバリ			中明(一17)	193
194魔師とコウノトリ	岸(一p42)・音1(二13)・光(二16)			194
210羊飼いのいたずら	漢(6才)・青木(三10才)・矢(12)・木1(一5)・木2(一16才)・宮(四4)・吉見(前6)・日1(4)・日2(8才)・丹(一上7才)・吉田(二二4)・岸(一p88)・沢(二5)・萩(一13)・音1(二15)・末(上12)・犬(二5)・榎(音上13)・国二(一19)・国三(一19)・国四(一14)	田1(二5)・榎(3才)・市(二1)・田2(二12)・幸(五10-14)・原(五11)井上1(三13)・三尾(二中5)・中川(四4)・東(三18)・三宅(二3)・学習(三9)	外朝1(一17)	210
213サクロビリゴとイバラ		池(一6)		213
224イソジとキツネ	能1(二4)・文1(一24)	原(四30)・中川(六9)		224
226カメとウサギ	木1(一6)・木2(五16才)・佐(一2才)・岸(一p53)・能1(三16)・音1(二36)・森(一3才)・音1(一17)・18)・学1(二14)・音2(一16)・学2(一14)・右(二4)・樋(二15)・音2(二1)・文2(一20)・音3(一17)・光(一25)・国二(一3)・国三(一3)	原(五44)・音1(五31)・文部1(七13)・音1(五4)・浅(四17)・埴1(一2才)・埴2(一2才)・樋(一甲一18才)・埴4(一1才)・高知(一1才)・光(一p54)・国六(三下2)	中金(二7-1)外南5(二23)	226
230カメとウサ		原(五39)・阿(二37)		230
232マアツンとロス河畔のキツネ			中明(一17)	232
235アリとハト	福(二回六1)・佐(三4才)・沢(三3)・能1(一12)・森(一11才)・重(一p33)・京(一8)・犬(二4)・学1(二4)・学2(一22)・文1(二14)・樋(一15)・音2(二8)・光(一17)	原(五44)・音1(五31)・文部1(七13)・音1(五4)・浅(四17)・埴1(一2才)・埴2(一2才)・樋(一甲一18才)・埴4(一1才)・高知(一1才)・光(一p54)・国六(三下2)	中金(二7-1)外南5(二23)	235
237ロバを買う男	能1(一3)			237
255奴とイオツ		三尾(三上4)・右(七12)	外台1(七8)	255
265狸師と山ウサ	能1(二9)	埴溝2(二15)		265
269イソジと馬と狸師		内2(四4)・新2(一31)		269
281タナウツのオツドリ	国三(二1)	日(四12才)・国一(二p37)		281
285神像をたきつぶした男		中原1(六13)		285
291牛追いとヘラクレス	青山(五17)・能1(一5)	井上1(三25)	中上(二24-1)	291
294ツルとウジヤウ		池(二10)		294
302カシノキとセウス		池(二8)		302
303きこりと松		池(二8)		303

319馬と馬丁			井上2(三46)		31
322カニと母親			原(四27)		322
325ヒバリと農夫			田1(二4)・田2(二6)・宇(五10・12)・学海4(五10)・国一1(五6)		325
326腫瘍(おくひょう)な狸師				中明(一17)	326
330犬と主人					330
346オオカミと肥えた犬	能1(一20)				346
349ランゴ			阿(五37)		349
352田舎のネズミと町のネズミ			中原2(二2)・小松(六5・6)		352
355オオカミを閉じ込めた奴になった羊飼いの			井上2(一22)		355
373セミとアリ	木1(十5)・吉見(前8)・岸(一p95)・能2(一24)・岡(一p8)・小(七8)・学1(二5)・学2(一23)・金(甲16)・右(二9)・育2(一23)・光(一13)・国四(二11)		辻(続14才)・中島(四6・六4)・池(二13)・阿(一58)・内3(五21)・中川(七22)・木(四12・13)・青1(四7)・学海1(ノ9)・坪1(四15)・普2(一p26)・坪2(四15)・金8(四4)・樋1(四16)・坪4(四15)・小山3(二13)・高知(四15)・文(学)6(四8)・国六(三下2)	外台1(六13)・外台2(七10・3)	373
376自分を含めたらまけるヒキガエル	青1(二12)・小(三11)		中原2(一28)	0外南5(四16)	376
384ネズミとカエル	青1(二5)		若(三11)・吉静(五32)・井上1(三11)・吉賀(六2)・佐1(四上3)・高橋1(四上20)・中樺1(二27)・中根2(三26)・青1(六3)・学海1(三28)・渡(五上才)・青2(五15)・坤(五7)・青3(四8)・西沢3(四22)・光(四2)	外台2(四10)・外台3(三8)	384
390ノビボリガラスと水差し	岸(二p82)・沢(一10)		井上2(一18)		390
412川と海			久(二26)・井田(四14)・中原1(五2)・青1(五14)・学海1(五16)・小山1(二p29)・国二1(一p18)・国二2(一p18)・国三2(一p18)・国五2(一p17)・中原1(六5)		412
414雄牛と母(ライオンとイノシシ)					414
426キツネとヒル	木1(一11)				426
451羊の皮を着たオオカミ					451
460ロノの陸				外南5(六20)	460
472高慢らきカラスとウジヤウ	木2(二17才)・青1(一38)・普1(二21・22)・普2(二22)・文1(二15)・文2(二8)・普3(二18)		市(二1)・阿(二15)・中川(二35)・坪1(三24)・坪2(三22)・坪4(三21)・高知(三21)		472
499姉と弟			原(五33)・阿(一29)・中川(四9)		499
503ニトロリのヒナと真珠			池(二4)・阿(四16)		503
521アリとハエ			鳥(21)・内1(四2)・内2(六2)・中原2(二28・29)・三宅(一22)・金2(上一4才)		521
563ライオンと羊飼いの	木1(ノ24)・青1(二27)		阿(六24)・小山2(乙一17・18)・小山4(二10・11)		563
563aアジロカリスとライオン			内1(五23)・阿(四37)・井上1(五4)・内2(七23)・井上2(七4)・青1(六11)・興(四15・16)・学海3(二4)・青3(四9)・金8(五4)・学海5(一14)・学海6(一14)・学海7(二4)・青4(四9)・青5(五12)・国一1(五14)・国二1(五18)・国三1(三23)・国三2(五23)	外南4(三21)・外南5(三19)	563a
566コウモリ	木1(三19)・能1(六11)・小(ノ5)・右(二22)		内1(六17)		566
569サルの王様			文部1(一9)・西郷(四20)・右(四11)		
605派山の手持ちを持つキツネと一ツだけの猫			阿(五25)・中原1(五3)・青1(六7)・青2(四15)・青3(四11)・坪1(三8)・坪2(三6)・学海5(二14)・学海6(二16)・右(二19)・青4(四11)・青5(四16)・坪4(三6)・高知(三6)・国三1(二12)・国四(三17)・国五1(三12)・国五2(三12)	中藤(二5・2)・外南4(二13)	605
613ネズミ、猫のことを協議する	能2(一25)・小(四11)・教1(三2)・教2(三39)・教3(三2)		池(二9)・原(五35)・阿(五40)・塚靖2(六12)		613
627チンデールのライオンと船頭					627
640a童と小作人				中藤(二5・1)	640a
671キツネとハト			新1(二20才)		671
721父親と息子とロバ			内1(二26)・内2(二26)・三宅(一19)・新2(一11)・金2(上一28才)・山1(六6)・山2(六7)・金5(一12)・文学1(七5)・文学2(一3)・国一2(四19)		721
(O1)少女と牛乳壺	沢(三11)		植(上3)・山1(七13)・山2(七12)		(O1)少女
(O3)狡猾な子ども	岸(一p117)・小(ノ14)・梶(首下7)		吉賀(四16)・井上2(三43)		(O3)狡猾な子ども

(04) 取り除かれた生け垣		池(一6)		(04) 取
(05) 子どもとカエル	青山(一6)・森(一9才)・教1(一19)・教3(一19)	市(二1)・中島(三1)・宇(三5-10)・菅1(四26)・井田(二14)・吉賢(四20)・佐2(二上14)・東(四2)・青1(四14)		(05) 子
(08) 盗人と法師			中大(六5)・中武(一10)	(08) 盗
(21) 二匹のヤギ	小(六12)	工(六8)・島(八8)・興(八8)・国六(二5-2)	外台2(七10-1)・外南2(三17)	(21) 二
(36) 馬の裁判		国三2(三27)	中大(五7)	(36) 馬
イッヅノ物語紹介		国六(五下11)		イッヅノ